

<数 学>

1 編集の具体的方針

(1) 各学年の分冊

原典教科書の表表紙・裏表紙のカラー写真とその説明は省略した。

「解答」は、各章の巻末に分割して掲載した。

「さくいん」は、それぞれの言葉が掲載されている巻末に配置した。

原典教科書の巻末の切り取り図は、該当する章の巻末に点図で掲載した。

1 学年

- 1 巻： 1 章 正の数・負の数
小学校の計算
- 2 巻： 2 章 文字式
- 3 巻： 3 章 1 次方程式
- 4 巻： 4 章 比例と反比例
- 5 巻： 5 章 平面図形
 - 1 平面図形の基礎
 - 2 いろいろな作図
- 6 巻： 5 章 平面図形
 - 3 図形の移動
- 7 巻： 6 章 空間図形
 - 1 空間図形の基礎
 - 2 立体のいろいろな見方
- 8 巻： 6 章 空間図形
 - 3 図形の計量
- 9 巻： 7 章 資料の活用
- 10 巻： さらなる数学へ

2 学年

- 1 巻： 1 章 式の計算
1 年の計算
- 2 巻： 2 章 連立方程式
- 3 巻： 3 章 1 次関数
- 4 巻： 4 章 図形の性質と合同
- 5 巻： 5 章 三角形と四角形
- 6 巻： 6 章 確率
- 7 巻： さらなる数学へ
図形の性質のまとめ

3 学年

- 1 巻： 1 章 式の計算
1・2年の復習
- 2 巻： 2 章 平方根
- 3 巻： 3 章 2 次方程式
平方根表（平方根表は原典教科書にはない。）
- 4 巻： 4 章 関数 $y=ax^2$
- 5 巻： 5 章 相似
 - 1 相似な図形
 - 2 平行線と相似
- 6 巻： 5 章 相似
 - 3 相似と計量
- 7 巻： 6 章 円

- 8巻： 7章 三平方の定理
- 9巻： 8章 標本調査
さらなる数学へ
- 10巻： ふりかえり
図形の性質のまとめ

(2) 点字表記について

- ① 漢数字で書かれている部分で、数として伝える必要があるところについては、音ではなく、数を用いた。「十の位→10の位」、「二桁→2桁」
- ② 数や項目番号の後に助詞が続くとき、番号の後1マスあけた。図の番号や問いの番号の後も同様とした。
- ③ 項目番号の後は、区切りをはっきりとさせるために2マスあけとした。
- ④ 数やアルファベットの後の読点は削除し、1マスあけを原則とした。
- ⑤ 枠の閉じや終始線がページの最初にこないようにした。
- ⑥ 図や表の番号はつなぎ符を用いた。
- ⑦ 定理や重要なまとめなどは、次の枠ではさみ、枠内にまとめられた箇条書きについて、複数行にわたる場合は、2行目以降は、番号の後から書いた（文の書き出しより2マス上げた）。

.....

.....

- ⑧ 図の横書きの場合は、縦の状態の1行目に、図番号及び（横書き）と書き、横の状態、改めて図番号とタイトルを書いた。
- ⑨ 図や表中の数学記号やアルファベットについては、数式指示符や文字を、誤読の恐れがない限り省略した。
- ⑩ 図が見開き内にある場合は、図のページを指示せず、それ以外のときには、ページを示した。
- ⑪ 空欄に続く助詞は1マスあけとした。単位はつなげた。
- ⑫ 点字での表記の説明や、墨字の記号の紹介を（注）として挿入した。

(3) 数学記号について

日本点字委員会の『点字数学記号解説 暫定改訂版』を基本とする。従来通り、普通の文字の表現と異なる記号については説明を加えているが、「3 資料」のように数式指示符、分数囲み記号についての説明を、各学年の第1巻の扉の後に添付した。また、数式指示符、分数囲み記号については、以下のように扱っている。

- ① 単独の記号を含め、数式の始まりを示す数式指示符を前置することを原則とした。ただし、図や表の中では、スペースの関係から省略することもある。文字式の縦計算は、全体を1つの式と解釈し、数式指示符をつけるときは、最初だけに前置したが、連立方程式の縦計算では、それぞれの等式が独立しているものと解釈し、それぞれの等式や演算記号に数式指示符を前置した。また、①×2などは、一般の式ではないと解釈して数式指示符をつけなかった。
- ② 分数にはすべて、分数囲み記号を用いた。

(4) 電卓について

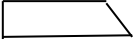
音声あるいは触読ピンで出力する機種を利用することができる。ただし、現状では、小型で廉価な機種はルートキーがないなど、盲人用電卓の環境は必ずしも十分ではない。そのため、応用可能な部分については、盲人用そろばん（『盲学校小学部点字教科書編集資料』「算数」参照）や、コンピュータを音声などの出力によって利用したりするなどの工夫も必要である。平方根表は、原典教科書にはないが、このような事情を考慮し、3学年第2巻末に入れることとした。

2 編集の具体的内容

(1) 全体のレイアウトについて

見出しなどの記号類は次のように変更した。

- ① 1章は、8マスあけて1章と書き、2マスあけて項目を記した。2行以上に渡るときには、項目より2マス前から書いた。また、その後1行空けた。

- ② 1は、8マスあけて、数字のみ表記した。
- ③ 1 | は、6マスあけて、1. と表記した。
- ④  に囲まれた見出しは、4マスあけてタイトルを書いた。
- ⑤ 各カテゴリーの終わりには、区切り線(10マス程度)を入れて、その後1行空けた。
- ⑥ 「確かめよう」は、4マスあけて表記し、その後2マスあけてタイトルを(1 正の数・負の数)のように表記した。また、大問番号は、2マスあけて1などと表記し、その後2マスあけて、項目名や該当ページを書いた。さらに、行を改めて、問題文を書いた。小問番号は、1. などとした。
- ⑦ 「計算力を高めよう」は、6マスあけて表記し、行を改め8マスあけて、タイトルを(正の数・負の数)のように表記した。次の行に8マスあけて、解答のページ数を表記し、再度行を改め2マスあけて、(家庭学習や計算練習で利用しましょう。)と書いた。その後、空行を入れ、問題を書いた。問題は2マスあけて書き始め、大問番号は1などと表記し、小問番号は、1. などとした。
- ⑧ 「章のまとめ問題」は、6マスあけて表記し、次の行に8マスあけて、解答のページ数を書いた。また、「基本」「応用」「活用」などのタイトルは、行を改め4マスあけて、(キホン)などと表記した。大問番号は、行を改め2マスあけて1などと表記し、小問番号は、再度行を改め2マスあけて1. などとした。
- ⑨ 「クローズアップ」は、内容を次の枠に入れ、枠内の最初の行に6マスあけて、クローズアップと表記し、次の行に4マスあけてタイトルを書いた。さらに、行を改め2マスあけて、内容を書いた。
-
-
- ⑩ 数学的活動にあたる箇所は、内容を次の枠に入れ、枠内の最初の行に4マスあけて、見つける(数学的活動)などと表記し、行を改め2マスあけて、内容を書いた。
-
-
- ⑪ 「深めよう」は、6マスあけて、(深めよう)と表記し、その後2マスあけてタイトルを書いた。タイトルが2行以上に渡るときには、2マス下げて続けた。なお、発展のマークがついている場合には、タイトルの後に、1マスあけて(発展)と書いた。解答がある場合には、行を改め8マスあけて、解答のページ数を表記した。
- ⑫ Qのマークは、2マスあけて(Q)と表記した。その後2マスあけた。
- ⑬ 例1は、2マスあけて、レイ__1と表記し、その後2マスあけて、内容を書き始めた。また、考え方・解答・証明は、4マスあけて、それぞれ(考え方)、(解答)、(証明)と表記し、行を改めて内容を続けた。
- ⑭ 問1は、2マスあけて、トイ__1と表記した。
- ⑮ 「トライ」は、4マスあけて、(トライ)と表記し、解答ページの表記がある場合は、(トライ)の後2マスあけて、解答のページ数を表記した。
- ⑯ 例、問、トライの前と後には、1行の空行を入れた。小問番号は1. と表記した。「伝える」のマークがついている場合には、例、問、トライの後1マスあけて(つたえる)と表記した。
- ⑰ 注意は、2マスあけて、(チューイ)と表記し、その後2マスあけて、内容を続けた。なお、注意の前には空行を入れなかった。
- ⑱ 「やってみよう」の指示は、2マスあけて、(やってみよう p〇〇 「計算力を高めよう〇」〇)と書いた。
- ⑲ 電卓マークは、問やトライの後、1マスあけて、トイ__1(デンタク)のように表記した。
- ⑳ 「クローズアップ」や数学的活動の枠内、ふりかえりや深めようの内容については、1などを(1)とし、その中の番号を1. などとした。

(2) 目次のレイアウトについて

原典教科書の目次は、節のタイトルまでであるが、点字教科書では、1. 2. にあたるタイトルまで目次に入れた。なお、各章の始めに書かれている節のタイトルを削除した。

また、原典教科書の目次の左側に囲まれている、過去に学んだ内容については、各学年の第1巻の全巻目次のあとに、これまでの学習というタイトルをつけて挿入した。このとき、該当する章のタイトルをすべて書いた後に、過去に学んだ内容を書いた。

(3) ノートの使い方のページについて

原典教科書では、具体的なノートの例を示しながら、ノートの書き方や活用の際の留意点が記されている。

ノートの具体例は、墨字で作成することが前提となっているため、点字教科書では省略し、次のように留意点等のみを書いた。

ノートの使い方

数学のノートは、学習の記録です。あとでふりかえったとき、授業の中でどんなことを考え、どんな筋道で問題を解決したのかが、わかるようなノートを目指しましょう。

ノートには、次のようなことなどを書こう。

学習した日
教科書のページ
目標
問題
自分の考え
友だちの考え
気づいたこと
まとめ
感想

感想には、次のようなことを書こう。

わかったこと
くふうしたこと
授業で思ったことや気づいたこと
友だちの考えで参考になったこと
次にやってみたいこと
疑問に思ったこと

ノートをかくときの注意

気づいたことをメモしておこう。

まとめは自分のことばでわかりやすく書こう。

式を使ってわかりやすく書こう。

誤りは「めめ」で消さずに「訂正」と書いて書き直し、誤りの理由も書いておこう。

(4) 「ふりかえり」のレイアウトについて

ふりかえりのページは、原典教科書では、上半分にイラストを用いた具体的な問い、下半分に「これまでに学習したこと」が掲載されている。

点字教科書では、先に「これまでに学習したこと」を書き、その後に『「〇章 ……」に向けて』というタイトルを付けて、イラスト部分の問い等を書いた。

また、いくつかの章に関連するふりかえりをまとめて行うため、ふりかえりのページだけを独立させて、図番号を付した。その際、本文とわかるため、アルファベットを用いて、図aなどとした。

(5) レポートの作成のページについて

原典教科書では、レポート例が中央に示されており、レポート例の左右欄外にレポート項目についての留意点が書かれている。原典教科書と同様のレイアウトでの点訳は困難なため、次のようなレイアウトに修正した。

- ① 見開きの2ページを使ったレイアウトとした。
- ② レポート例を左ページに示し、右ページに原典教科書の左右欄外に示されている留意点を示した。
- ③ 留意点はレポート例の項目に対応させて示した。

(6) キャラクターについて

本文の随所にキャラクターが登場し、その吹き出しに数学学習のポイントとなるコメントが述べられている。「ピータ」と名前をつけて、そのコメントを本文に挿入した。また、式の変形などの説明が点字では式と併記することが難しいときなど、このキャラクターのコメントとして挿入した。

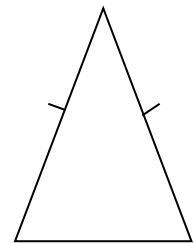
このキャラクターの説明を、各学年の「この教科書の使い方」の最後に、「ピータ いろいろな場面に登場して、考え方や問題を解くためのヒントを示してくれます。」と追加した。

なお、本文中に登場する生徒は、名前が記されているイラストと対応させて名前をつけて、そのコメントを挿入した。なお、名前が記されているイラストと対応させられないものについては、個々に名前をつけた。

(7) 図の扱いについて

触る図形は、触覚の分解能が視覚の数十分の1から数百分の1と低いこと、触覚情報がスキャニングによっているため図全体を理解するのに相当な時間がかかること、そして立体の把握が困難であることなどにより、その情報量は目で見える図形の情報の1万分の1程度といわれており、普通の文字の図と同等には扱えない。そのため、以下のように扱っている。なお、実際の指導にあたっては、模型教材などを活用するなどの配慮が必要である。

- ① 原典教科書に掲載されている図や写真、挿絵のうち、必要なものはできる限り触図化した。ただし、挿絵や写真は、触図化が困難であり、本文を理解する上で必ずしも必要でないものが多く、それらは省略し、必要に応じて文章による説明を加えた。
- ② 図の製版は裏面に影響するため、図は本文のあとに、ページの下方に、図の区切り線を引くか、あるいはページを改めて書いている。したがって、関連する本文の近くに図を挿入することができないため、該当する本文中に、章ごとの一連番号とした図番号（「ズ__2 2」など）をつけるとともに、図にも同じ番号をつけて対照させている。
- ③ 図の外形線や重要な線は、触刺激の強い中程度の凸点の連続線や点線を用い、補助的な線や展開図の折り線などには小点や凹点の連続線や点線を用いた。グラフは、原則として座標軸以外の方眼線は読み取りに支障をきたさない限り凹点とし、他は凸線や凸点とした。なお、方眼や座標の目盛り線など、そのままでは密度が高く触読の困難なものは、適宜省略したが、方眼の1メモリが触読に適した大きさよりも小さな方眼でしか表現できなかったものもある。そのため、指導の際は、生徒の実態に応じた方眼を準備することが望ましい。
- ④ 寸法線や寸法補助線は、すべて描くと触図の読み取りを困難にするため、誤解のない限り省略して必要な部分のみとした。なお、矢印については、寸法線など範囲を示すだけのものは省略した。
- ⑤ 図中の単位については、図中に書ききれない場合には、(注)として図の最初にまとめて記す方法なども用いた。
- ⑥ 立体図形については、第3角投影図法の表現を原則とした。その場合、「平面図」、「立面図」などの表現はとらず、「上から見た図」、「前から見た図」と表現した。また、問題によって「上から見た図」か「前から見た図」の一方のみを記したり、投影図法での表現ではわかりにくい場合には「・・・の断面図」などを用いたりもした。
- ⑦ 図形の中の等しいマークなどは、例題や例については必要な部分を入れたが、問の図については文章からきちんと読み取れることを目指し、原則省略した。また、長さが等しいことを示すマークについては、図形の外形をはっきりと認識できるように、次のように辺の外側に記した。



(8) 表について

表については、次のような配慮を行った。

- ① 原則として、縦・横を入れ替えないようにし、本文との順序を考慮して挿入した。ただし、関数的要素のない表で、縦・横を入れ替えることでページ幅に収められる場合は入れ替えた。
- ② 表は、表番号を示した後、枠に入れて表すこととした。なお、関数分野の表については、項目と数値の境目が分かるように、枠を以下のように表した。

.....●.....

.....●.....

- ③ 出来る限り、表全体が1行に収まるよう、表の項目名が長い場合や単位がついている場合は、注記を入れ、表中の項目の欄を短縮した。また、それでもマス数に収まらない場合には、枠を含めて次に移し、5マス目から書いた。
- ④ 表の上下に矢印が記されている場合、矢印の内容を触って理解することは困難なので、矢印の内容を言葉で表現するか、内容によっては矢印を省略した。

(9) 原典教科書のページの右側に書かれている内容については、以下のように扱っている。

- ① 囲みの部分については、内容に応じて、「メモ」などのタイトルをつけて記すか、カッコに入れて本文に挿入した。また、必要に応じて、図式化された内容を、文章による説明に変更した。その際、文章による説明が本文と重複する場合は、囲みの部分を省略した。
- ② 囲みの部分や、「ふりかえり」「数学的な考え方」などは、本文の内容を考慮した上で、本文との順序を検討して挿入した。大部分は、本文の該当箇所のあとに挿入した。

(10) その他

- ① 強調文字は、「」ではさんだ。
- ② 式についている①などの表現は、点字の小カッコを使用して、 $\dots\cdot$ \cdot などとして表現した。
- ③ □にあてはまる数や式を入れる場合に、原典教科書では□に記号がついていないことが多いが、解答を書きやすくするため、□に記号をつけた。なお、式中の符号などを□にしている場合は、記号をつけると読みにくいこともあり、記号はつけず、完成した式すべてを解答するように指示を変更した。
- ④ 原典教科書にある「書き入れなさい」は、別紙に書くことも考慮して「書きなさい」や「示しなさい」、「図に書き入れなさい」は「図で考えなさい」や「図に記しなさい」、「点をとりなさい」は「記しなさい」、「表の空らんをうめなさい。」は「表を完成させなさい。」、「図形をかきなさい」は「図形を考えなさい」、「作図しなさい」は「作図の方法を説明しなさい」などと表現を変更した。
- ⑤ 式変形の説明を矢印で入れている部分について、点字教科書では内容をカッコに入れて、式の中に挿入した。また、約分の際に、式の上に重ねて書き込んでいる部分についても、具体的な約分の指示をカッコに入れて、式の中に挿入した。
- ⑥ 筆算形式の式には、式の前に（筆算）とかいた。
- ⑦ 式中に用いられている○、△、□は、文字に置き換えた。
- ⑧ 原典教科書の「小学校」「中学校」という文言を、それぞれ「小学部」「中学部」に変更した。
- ⑨ 関数の方眼について、問でグラフを書き込むための方眼は、原則削除した。ただし、関数の利用などの際に、軸の1メモリが1でない場合には、グラフを作成する際の参考になるよう、グラフ用紙を表記したが、指導の際には生徒が使いやすい用紙を準備することが望ましい。
- ⑩ 編集の詳細を次ページ以降に示した。その際、上述した内容に該当する部分は省略した。また、修正事項の欄において、「修正・削除」は文章等を修正した上で、図等を削除したことを表し、「削除・修正」は図等を削除した上で、文章等の修正を行ったことを表した。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考						
1年	2	4～5	修正	<p>文章中に説明を加え、2段落目の最初を、次のようにした。</p> <p>まず、算数の「算」という漢字をよく見てください。「竹」という漢字の下に「目」という漢字があります。</p>							
	5		削除	5章・6章の目次に対応させて書かれている、小学校での学習内容の中の、「見取図・展開図」を「展開図」のみとした。							
	8	図	修正	数直線の上下を逆にした。							
	9	3	修正	<p>小数のかけ算と分数のかけ算の計算方法を記した部分を、それぞれ次のように文章化した。</p> <p>2.1×2.3では、2.1を10倍すると21. 2.3を10倍すると23 21×23=483 483を100で割ると4.83なので、2.1×2.3=4.83</p> $\frac{4}{5} \times \frac{2}{3} = \square$ <p>$\frac{4}{5}$を5倍すると4、$\frac{2}{3}$を3倍すると2 4×2=8 8÷15=□</p>							
	12～13	図	修正	日本地図上に各地の今日の最高気温（前日比）を示した図を表に変更した。							
	12～13	写真	削除 修正	<p>海拔を表す写真、ゴルフのスコアボードの写真、気温を表す写真を削除し、気温の表・生徒のセリフ・ピエタのセリフのあとに、次の文章を挿入した。</p> <p>駅の出入り口には「海拔-0.1m」という表示があったり、ゴルフのスコアボードには「-8」と表示されたりしています。</p>							
	14	図	修正	新潟と鹿児島 の温度計を略図にし、目盛りは0とそれぞれの温度を示す数字のみとした。							
	15	図	削除	Qの図中の左にある目盛りは削除した。							
	16	9	追加	<p>分数記号の説明を、9行目のあとに追加した。</p> <p>(注) 分数は分数囲み記号を用いて、 $\frac{\cdot\cdot\cdot}{\cdot\cdot\cdot}$ (分子) $\frac{\cdot\cdot\cdot}{\cdot\cdot\cdot}$ (分母) $\frac{\cdot\cdot\cdot}{\cdot\cdot\cdot}$ と書く。問5(4)の $\frac{\cdot\cdot\cdot}{\cdot\cdot\cdot}$ $\frac{\cdot\cdot\cdot}{\cdot\cdot\cdot}$ は、この表記を用いた分数表現で「マイナス5分の2」と読む。</p>							
	16	図	修正	<p>整数の図を、次のように表した。</p> <p style="text-align: center;">整数</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 0 10px;">負の整数</td> <td style="padding: 0 10px;">0</td> <td style="padding: 0 10px;">正の整数</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;">(自然数)</td> </tr> </table> <p>···-3 -2 -1 0 +1 +2 +3···</p>	負の整数	0	正の整数			(自然数)	
	負の整数	0	正の整数								
			(自然数)								
	17	7	修正	「上の数直線を使ってかいてみましょう。」を「説明しましょう。」に変更した。							
17	図	修正	点A、点Bが入った数直線を-4.5 から+5までと								

			した。	
17	図	修正	原点を示す数直線の範囲を-3から3までとし、入れる数字を、-3、-2、-1、0、+1、+2、+3とした。また、「正の向き」と矢印も数直線の下に入れた。	
17	図	修正	問2の数直線の範囲を-3.8から+3までとした。	
18	図	修正	Qの数直線の範囲を-3から+3までとした。また、「大きくなる」の矢印も数直線の下に入れた。	
20	図	修正	3の数直線の範囲を-5から3までとし、細かくなりわかりにくいので、目盛りを0.2刻みから0.5刻みに変更した。	指導の際には、0.2刻みの数直線も作成するとよい。
21	図	修正	Qの問題文を次のように修正した。 図15のカードゲームをしましょう。 ルール：-6から+6までの13枚のカードを用意する。13枚のカードをよく混ぜ、…（以下原文通り）	
21	図	削除	カードゲームの図、カードの図、カードゲームの動いた結果の図は削除した。	
21	表	修正	問1の表を次のような文章に変更した。 Qのカードゲームで次の（ア）～（ウ）の場合について、動いた結果を求めるたし算の式を書きなさい。 （ア）1回目の動きが-5、2回目の動きが-3 （イ）1回目の動きが+5、2回目の動きが-3 （ウ）1回目の動きが-5、2回目の動きが+3	
22	1	修正	「前ページでつくった」を「問1でつくった」に変更した。	
26	表	修正	問1の表を次のような文章に変更した。 Qのカードゲームで次の（ア）～（ウ）の場合について、2回目の動きを求めるひき算の式を書きなさい。 （ア）1回目の動きが-3、動いた結果が+2 （イ）1回目の動きが+4、動いた結果が+1 （ウ）1回目の動きが-2、動いた結果が-6	
27	1	修正	「前ページでつくった」を「問1でつくった」に変更した。	
27	図	削除	「2回目は、正の向きは3動いた」という図を削除した。	
28	1	修正	Qの問題文を次のように修正した。 次の1.～4.の減法と、(1)～(4)の加法で、答えが同じになる式を選び、=でつなぎましょう。また、その結果から、気づいたことを話し合ってみましょう。	
30	11	修正 修正 削除	問題文の始めに、「スペード、クローバーは黒のカードです。ハート、ダイヤは赤のカードです。」を挿入した。 また、 1 ～ 4 の説明を次のように変更し、トランプの絵は削除した。 1 持ち点が+5点（クラブの3、クラブの2）のと	

			<p>き、黒（スペード）の3をとった。</p> <p>② 持ち点が+5点（スペードの1、クラブの4）のとき、赤（ダイヤ）の3をとった。</p> <p>③ 持ち点が+5点（ハートの2、クラブの4、スペードの3）のとき、黒（スペード）の3をとられた。</p> <p>④ 持ち点が+5点（クラブの5、スペードの3、ダイヤの3）のとき、赤（ダイヤ）の3をとられた。</p>	
31	12	削除	正の項と負の項を示した囲みは削除した。	
32	20	削除	解答の囲みの部分「式の説明なども書いておこう。」は削除した。	
37	8	修正	<p>Qの(2)のを次のような文章に変更した。</p> <p>次の(例)は2分後(+2)の真央さんのいる地点を式で表しています。(例)を参考に、1分後(+1)、現在(0)、1分前(-1)、2分前(-2)の真央さんのいる地点を式で表してみましょう。</p> <p>(例)</p> <p>(1) 2分後(+2)には140m東(+140)の地点にいる。</p> <p>(2) (速さ)×(時間)で(地点)を求めることができるので、$(+70) \times (+2) = +140$となる。</p>	
38	5	修正	<p>Qの(2)を次のような文章に変更した。</p> <p>次の(例)は2分後(+2)の太一さんのいる地点を式で表しています。(例)を参考に、1分後(+1)、現在(0)、1分前(-1)、2分前(-2)の真央さんのいる地点を式で表してみましょう。</p> <p>(例)</p> <p>(1) 2分後(+2)には140m西(-140)の地点にいる。</p> <p>(2) (速さ)×(時間)で(地点)を求めることができるので、$(-70) \times (+2) = -140$となる。</p>	
40	17	修正	「①、②の計算」を「次の式の1行目から2行目、2行目から3行目の計算」に変更した。	
42	3~5	修正	<p>3行目から5行目の文章を、次のように修正した。</p> <p>5×5は$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わして、「5の『2乗』」と読み、$5 \times 5 \times 5$は$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わして、「5の『3乗』」と読み、$5 \times 5 \times 5 \times 5$は$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わして、「5の『4乗』」と読む。</p> <p>$\begin{matrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わしたときの2や、$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わしたときの3や、$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と表わしたときの4は、かけ合わせた同じ数の個数を表している。この個数を表す「$\begin{matrix} \bullet \\ \bullet \end{matrix}$」の次にかいた数を「指数」という。</p> <p>点字では、特に2乗と3乗を表すために、それぞれ「$\begin{matrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{matrix}$」「$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$」という記号が定められており、5の2乗は$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$、5の3乗は$\begin{matrix} \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet & \bullet \end{matrix}$と簡単に表すことができる。</p>	
42	図	削除	問14の正方形と立方体の図は削除した。	
46		削除	囲みの「正しいかな？」を削除した。	
47		削除	囲みの「正しいかな？」を削除した。	
49	図	修正	$5 \text{ minus } 3 \text{ equals } 2 \rightarrow 5-3=2$ の矢印の部分を「を	

			式にすると」に変更し、図ではなく本文に挿入した	
49	11 図	修正	「これらの記号は、次のように・・・」を「墨字の＋はet（ラテン語で、英語の「and」と同じ意味）、－はminus（「不足」の意味）のmを、図32のように・・・」と変更した。 また、et、minus から記号への変形は、それぞれet、mと墨字の記号だけを図示した。	
50～51	図	修正	4人の記録を示した図は、数直線を一番上にし、それぞれの記録は名前の下に入れた。	
52	10 図	修正	数の集合を表した図の中の数字を省略し、図の前に、次の文章を追加した。 すべての数の集合の中に整数の集合が含まれ、整数の集合の中に自然数の集合が含まれている。 自然数の集合には、例えば1、5、13、48などがある。 整数の集合には、自然数の集合のほかに0、負の数－3、－21、－74などが含まれる。 すべての数の集合には、整数の集合のほかに、 －0.7、 $-\frac{1}{3}$ 、 $-\frac{8}{5}$ 、6.9、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{18}{7}$ などが含まれる。	
52	12	削除	問1の「上の図に、それぞれ書き入れなさい。」は削除した。	
53	9～ 12	修正	問2の問題文を次のように変更し、表は省略した。 数の範囲を自然数、整数、すべての数のそれぞれの集合として四則を考えます。四則計算のうち、つねにできるものをそれぞれ答えなさい。また、できるとは限らないものには計算ができない例を1つ示しなさい。ただし、除法では0でわることは除いて考えるものとしします。	
59	図	修正	世界地図上に東京を基準としたときの各地の時差を示した図を表に変更し、都市名のあとに国名を入れた。	
62	図	削除	メモ（ストローの本数を求める式）の中の、 $1 + 3 \times \square$ は削除した。	
66	図	削除	1辺がa cmの正方形と立方体の見取り図は削除した。また、メモの a^3 も削除した。	
69	9	削除	解答の「分数は2行使って書こう。」は削除した。	
71	図	修正	クローズアップ中の図を次のように文中に挿入した。 指数が1増えていくということは、aを1つかけていることと同じです。 $a^2 = a \times a$ $a^3 = a \times a \times a$ $a^4 = a \times a \times a \times a$ したがって、指数が1減るということは、aでわることと同じ意味になります。 $a^4 = a \times a \times a \times a$ $a^3 = a \times a \times a$ $a^2 = a \times a$	

			$a^1=a$ $a^0=1$ つまり a^1 は a 、 a^0 は 1 と考えることができます。																
77	キャラクター	修正	ピータのセリフを次のように変更した。 ピータ「2つの式を縦に並べて、縦書きで計算することもあるよ。」																
78	4	修正	囲みの部分（メモ）の中に、次の文章を挿入し、筆算の式を左右に並べて挿入した。 同類項を上下にそろえて計算する場合には、次の左の筆算を右の筆算のように考えることができる。																
80	21	修正	囲み部分の「正しいかな？」を削除した。																
82	図	修正	Qの図の中の式を、次のように図の前に表記し、図はストローの図のみとした。 悠悟さんの考えた式 $5 + 4 \times 2$ 知佳さんの考えた式 $4 + 4 - 3$																
87	21～23	修正	4（2）の問題文を次のように変更した。 真央さんとは別の考え方で基石の総数を求め、その考え方を説明し、表す式を書きなさい。																
88	図9	削除 修正	（1）の上の、ストランドの断面図を削除し、「1辺に並ぶ素線が・・・」を「図28のように1辺に並ぶ素線が・・・」に変更し、その後の図を参照するようにした。																
89	図	削除	2のカレンダーの縦に並んだ3つの数字の図を削除し、2の問題文のあとに、次のピータのセリフを挿入した。 ピータ「2、9、16の場合は、 $2 + 9 + 16 = 27 = 9 \times 3$ となるね。」 また、5の図についても削除して、次の文章を追加した。 （1） 斜めに並ぶ3つの数の和は？ （2） 斜めの2数の和を比べると？ （例） 11、19 と 12、18 （3） 次のような5つの数の和は？ （例） （ア） 9を基準に上下、左右の2、16、8、10 （イ） 15を基準に左上、右上、左下、右下の7、9、21、23																
90	5	削除 修正	イラストを削除し、あめと1円玉をとった数を表に変えた。 表1 あめの単位は個、1円玉の単位は枚 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>あめ</th> <th>1円玉</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>拓海</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>悠悟</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>結衣</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>知佳</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	名前	あめ	1円玉	拓海	3	2	悠悟	5	3	結衣	2	4	知佳	1	10	
名前	あめ	1円玉																	
拓海	3	2																	
悠悟	5	3																	
結衣	2	4																	
知佳	1	10																	
92	5	修正	Qは□の中に記号を書き入れる問いは、点字のノートに記号のみを書くのでは見直しをしたときわかり	指導の際には、ノートに完成した式を書かせる															

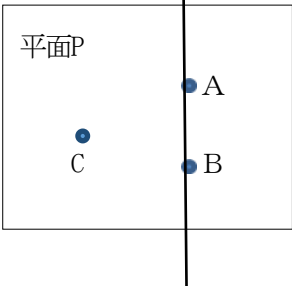
			<p>にくいので、文章を次のように変更した。 「～等号や不等号を考え、正しい式を完成させましょう。」</p>	とよい。
92	8 図	修正 削除	「右の図は、前ページの1の①の天びんを示したものである。」を「〇〇ページの図1の(1)をみて考えましょう。」に変更し、図は削除した。	
92	17 図	修正 削除	「また、1の④の天びんでは、」を「〇〇ページの図1の(4)をみて考えましょう。」に変更し、図は削除した。	
93	1 図	修正 削除	<p>「91 ページの1の②、③の関係を、」を「〇〇ページの図1(2)、(3)を見て数量の関係を、」に変更した。</p> <p>また、図は削除し、次のように表した。</p> <p>(2) 左側 $(x+10)$ g、右側 $(2x+4)$ g (3) 左側 $(2x+4)$ g、右側 $(5x+3)$ g</p>	
93	2	修正	<p>囲みの部分(メモ)を次のように文章化した。</p> <p>「等式 $3x+2=x+10$ や不等式 $3x+2<5x+3$ では、$3x+2$ は左辺、$x+10$ や $5x+3$ は右辺である。」</p>	
96	表	修正	<p>Qの表を次のように表した。</p> <p>xの値</p> <p>$x=1$ (左辺) $3 \times 1 + 2 = 5$ (大小) $<$ (右辺) $1 + 10 = 11$</p> <p>$x=2$ (左辺) \square (大小) \square (右辺) \square</p> <p>以下、同様</p>	
98	図	削除	Qの図を削除し、原典教科書 91 ページの図を参照するようにした。	
98	図	修正	天びんの図であめ1個の重さを求めていくものと、式を変形して求めるものを分けて記述した。	
98	20	修正	「次のような操作をしても」を「39、40 ページの図7(1)(2)のような操作をしても」に変更した。	
101	9	修正	気づきの内容の出だしを、「(ア)の①では・・・」に変更した。	
102	3	修正	<p>2つの囲み(メモ)を1つにし、中の矢印を省略して、次のように表記した。</p> <p>(メモ)</p> <p>(ア)</p> <p>$x - 9 = 3$ 左辺の -9 を右辺に移項すると $+9$ になる $x = 3 + 9$</p> <p>(イ)</p> <p>$2x = 6 + x$ 右辺の $+x$ を左辺に移項すると $-x$ になる $2x - x = 6$</p>	
102	5 12	削除	式の右側の囲みの部分(メモ)は、本文と同じ内容なので削除した。	
103	2	削除 修正	右側の囲みの部分(メモ)は解答と同じ内容なので削除した。また、解答の中のコメントは、拓海のセリ	

			フとして次のように挿入した。 拓海「見直したときにわかりやすいように、式の書き始めをそろえて書いておこう。」	
105	7	削除	囲み部分の「正しいかな？」を削除した。	
108	7～20	修正	青色の背景に書かれた方程式の解き方の説明①～④の部分の先にまとめて書いた後、Qの場合の考え方をまとめて書いた。その際、Qの場合の考え方についても①～④の符号をつけた。	
109	図	削除	問1で数量関係を表すための線分図を削除し、(1)の問題文を次のように変更した。 数量の関係を、ことばの式で表しなさい。	数量関係を図に表す場合には、レーザーライターなどを使用するとよい。
109	キャラクター	修正	ピータのセリフを次のように変更した。 ピータ「はじめにことばの式で表すと、数量の関係がわかりやすいね。」	
115	14	削除	囲みの部分(メモ)は本文と重複するので削除した。	
116	図	削除	問7の世田谷区の地図は触察しにくいことと、本文のみでも問題が解けるため削除した。	
117	69～14	修正	$3x - 5 = 7$ の式変形において、操作に付けられている①、②を省略し、4つの式に①～④をつけた。さらに、6行目の「左下の①、②の操作には、」を「①から②、③から④の操作には、」に変更した。	
119	10	修正	イラストを削除し、表で表した。	
120	表	修正	表を次のように表した。 xの値 x = 1 (左辺) $3 \times 1 + 2 = 5$ (大小) < (右辺) $1 + 10 = 11$ x = 2 (左辺) $3 \times 2 + 2 = 8$ (大小) < (右辺) $2 + 10 = 12$ 以下、同様	
122	14	修正	イラストを削除し、次のように文章化した。 (1) $3x + 80 = 230$ 拓海「ミカン3個とリンゴ1個を買うような買い物の場面で考えると…」 結衣「ひもの長さを230cmと考えると、どんな問題ができるかな？」 (2) $8 : x = 3 : 2$ 拓海「小麦粉と砂糖を計量すると考えると…」	
125	3	修正	イラストを削除し、文章化した。 「例えば、宅配便の大きさや重さと料金、本の読んだページ数と残りのページ数、走っている車についてなど」	
128	15～20	修正	クローズアップの2段落目の文章を次のように変更した。 「function」の「fun」は、中国語の「ファン(投	

			函のカン、箱の意味)」の発音と似ているため、中国では「ファンスウ（投函のカン、数字のスー）」という用語を使っています。日本でも以前は同じ字で「函数」と書いていましたが、使用文字の制限により、「関数（関は、かかわる）」に改められました。（以下、原文通り）																													
129	表	修正	表の上下の矢印を省略し、(2)のあとに次のピータのセリフを挿入した。 ピータ「1を2倍すると2、2を2倍すると4、-1を2倍すると-2、-2を2倍すると-4、1を3倍すると3、-1を3倍すると-3だね。」																													
134	5	削除	囲みの部分（メモ）は本文の内容と重複するので削除した。																													
135	9	修正	囲みの部分（メモ）を、次のように変更した。 （メモ） 表6で、 $x = -5$ 、 $y = -10$ の組は、点（-5、-10）になる。																													
135	図	修正	Qの方眼は、表の値の組に対応する点をとれるようにした。	方眼の1メモリは、触察に適した大きさにはなっていない。1メモリ1.5cm程度の方眼を準備することが望ましい。																												
141	グラフ	修正	Qの方眼は5mm幅では触察しにくいので、1cm幅とした。																													
149	表	修正	1はランドルト環を測る問題であるが、視力0.5以上のものは点図で測定するのが困難なので、表中に値を書き入れた。 <table border="1" data-bbox="517 1283 1137 1364"> <tr> <td>視力 x</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>外側の直径 y (mm)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="517 1402 1137 1482"> <tr> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td>0.8</td> <td>0.9</td> <td>1.0</td> <td>1.2</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>12.5</td> <td>10.7</td> <td>9.4</td> <td>8.3</td> <td>7.5</td> <td>6.3</td> <td>5</td> <td>3.8</td> </tr> </table>	視力 x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	外側の直径 y (mm)					15	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	12.5	10.7	9.4	8.3	7.5	6.3	5	3.8	空欄に入る値は次の通り。 0.1・・・75 0.2・・・37.5 0.3・・・25 0.4・・・18.6
視力 x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5																											
外側の直径 y (mm)					15																											
0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0																									
12.5	10.7	9.4	8.3	7.5	6.3	5	3.8																									
150	図	削除	ランドルト環は0.1～0.4のみを表し、0.5以降のものは、実測することが困難であるため省略した。																													
151	1	修正	3は、ランドルト環のすき間の幅を測る問題だが、測定困難なものが多いので、値の入った表を挿入し、本文を次のように変更した。 次の図30のように視力をx、すき間の幅をymmとします。結衣さんが、○○ページの図26を測ると次の表16のようになりました。0.1～0.3のすきまの幅を測って□にあてはまる数を答えなさい。また、xとyの間にはどんな関係があるか考えましょう。 <table border="1" data-bbox="517 1912 1137 1993"> <tr> <td>視力 x</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td>0.3</td> <td>0.4</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>すきまの幅 y (mm)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3.8</td> <td>3</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="517 2031 1137 2112"> <tr> <td>0.6</td> <td>0.7</td> <td>0.8</td> <td>0.9</td> <td>1.0</td> <td>1.2</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>2.5</td> <td>2.1</td> <td>1.9</td> <td>1.7</td> <td>1.5</td> <td>1.3</td> <td>1</td> <td>0.8</td> </tr> </table>	視力 x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	すきまの幅 y (mm)				3.8	3	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	2.5	2.1	1.9	1.7	1.5	1.3	1	0.8	空欄に入る値は次の通り。 0.1・・・15 0.2・・・7.5 0.3・・・5
視力 x	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5																											
すきまの幅 y (mm)				3.8	3																											
0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0																									
2.5	2.1	1.9	1.7	1.5	1.3	1	0.8																									

161		修正	「シートの下にはどんな図形がかくれているでしょうか。」を「図eの長方形のシートの下にはどんな図形がかくれているでしょうか。」と変更した。	
163	図	修正	島の地図にA道、B道、C山、D山、E山のみ残し、その他を削除した。	
164	5	修正	Qの文章中の「右の図の」を「図2のように点A、Bをとり、」と変更した、	
166	24	修正	問4の文章中の「左の図で」を「図11のような図をかき」と変更した。	
166	図	追加	図の中で、直角や平行を表す記号に関する説明を追加した。	
167	24	修正	トライの説明の図で、点線の三角形を1つ削除した。	
168	19	修正	問1の文章中の「コンパスを使って」を「図17のような線分OAをかき、コンパスを使って」と変更した。	
169	23	修正	問2の文章を次のように変更した。 図23のような円Oと点Pをかき、点Pを接点とする円Oの接線mをかきなさい。	
172	写真 9	削除 追加	作図における道具の役割を示した写真を削除し、次のピータのセリフを追加した。 ピータ「線分の長さをうつすときには、その線分の長さにコンパスを開けばいいね。」	
173	1	修正	例1の文章中の「次の」を「図32」と変更した。	
173	図	修正	問1の図において、作図の手順の(1)～(3)については1つずつの図とし、(4)(5)を含んだ1つの図を加えて、4つの図で表した。	
174	14	追加	手順の説明の後に、拓海さんの次のセリフを挿入した。 拓海「点P、A、Q、Bを結ぶとひし形になるね。」(図38)	
175	15	修正	問3の文章中の「次の図で」を「図41のように2点A、Bと直線ℓをかき」と変更した。	
176	17	追加	手順の説明の後に、結衣さんの次のセリフを挿入した。 結衣「点P、A、Q、Bを結ぶとたこ形になるね。」(図45)	
177	8	追加	問4のあとに、結衣さんの次のセリフを挿入した。 結衣「点P、A、Q、Bを結ぶとたこ形になるね。」(図47)	
177	9	修正	問5の文章中の「右の図で」を「図48のような直線ℓと点Pをかき」と変更した。	
178	図	修正	∠AOBの二等分線の図は、二等分線が水平な線になるようにした。	
178	19	追加	例4の手順の後に、拓海の次のセリフを挿入した。 拓海「点O、P、R、Q、を結ぶとたこ形になるね。」(図54)	
179	7	修正	問8の文章中の「右の図の∠AOBを」を「図56のような∠AOBをかき」と変更した。	
179	図	修正	Qの図の垂線の数を減らした。	
180	図	修正	例2の図を、接線が水平な線になるようにした。	
180	18	修正	問2の文章中の「例2の図で」を「円Oをかき、円	

			周上の適当な点Pをとり」と変更した。	
181	9～10	修正	手順の後の文章を次のように変更した。 拓海さんの方法で作図を行うと、もとの円が作図できるかどうかを考えてみましょう。	
182	13	修正	13～14行目の本文を、説明の前に移動した。	
183	1	修正	1の文章中の「次の図で」を「図63のような線分ABをかき」と変更した。	
183	2	修正	2の文章中の「次の図の△ABCで」を「図64のような△ABCをかき」と変更した。	
183	4	修正	3の文章中の「次の図で」を「図65のような∠AOBをかき」と変更した。	
186	19～21	修正	問2の文章を次のように変更した。 図72で、△ABCを、矢印の方向に矢印の長さだけ平行移動した△DEFについて説明しなさい。	
188	14～15	修正	問5の文章を次のように変更した。 図79で、△ABCを、直線ℓを対称の軸とし対称移動した△DEFについて説明しなさい。	
188	20	修正	移動を組み合わせることを説明のあとに、図80を挿入した。図80は、移動を表す矢印を削除し、それぞれの三角形に記号をつけ、それぞれへの移動を文章で示した。	
189	12～15	修正	問7の文章を次のように変更した。 図82で、△DEFは、△ABCを対称移動した図形です。このとき、対称の軸ℓの作図の方法を説明しなさい。	
190	3	修正	1の文章中の「下の図の平行四辺形ABCDについて」を「図84のような平行四辺形ABCDをかいて」と変更した。	
190	10	修正	2の文章中の「下の図は、直線XY上の点Aから半直線ABを引いたものです。」を「図85のような、直線XY上の点Aから半直線ABを引いた図をかき、」と変更した。	
190	図	修正	3の方眼を、触って理解できるように大きくしたため、直線1の左の方眼の数は10、右の方眼の数は8となった。	
191	13～16	修正	2の文章を次のように変更した。 図88で、点Aは円Oの円周上の点です。4つの頂点がすべて円Oの円周上にある正方形ABCDの作図の方法を説明しなさい。	
192	図	修正	縮尺で1000mを表す線分を、750mを表す線分とした。	
192	9	修正	(1)の最後の文を、次のように変更した。 知佳さんの家の位置を決める作図の手順で考え、地図上でおよその位置を示しなさい。	
196	図	削除	(1)の分類した図は省略し、次のように文章で表した。	

			グループ1 (ア) (ウ) (オ) グループ2 (イ) (エ) (カ)	
197	図	修正	底面、側面、頂点の説明の図を、展開図で表した。	
198	キャラクター	修正	ピータのセリフを次のように変更した。 ピータ「図6のような立体や、へこみのある立体は正多面体とはいわないよ。」	
198	図	削除修正	正多面体ではない立体の例の写真を省略し、サッカーボールのような立体と正四面体の底面同士をつけた立体は、「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
199	図	修正	一直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まることを示した図を次のように表した 	
200	図	修正	Qの直方体の見取図を「上から見た図」と「前から見た図」で表した。また、基点となるAに最初に指が触れるように、時計回りに90°回転させた。	
200	17	修正	「空間における2直線の位置関係」を、次のように文章化し、ねじれの位置を表す図は、平面Pを上から見た図とした。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 交わる 2. 平行 3. ねじれの位置 <ol style="list-style-type: none"> 1. と2. は同じ平面上にある。 3. は同じ平面上にない。 2. と3. は交わらない。 	
201	図	修正	「空間内の直線と平面の位置関係」の図について、それぞれ次のように表した。 (1) 直線が平面に含まれる (上から見た図)  <ol style="list-style-type: none"> (2) 1点で交わる (3) 交わらない 「次ページの(2)(3)の直線lとの位置関係を考える」	(2)(3)の直線の図は、平面Pの図と見開きとし、平面Pのページを立て、(2)の直線と1点で交わること、(3)の直線とは交わらないことを確認する。

			<p>平面P (2) (3)</p> 	
201	図	修正	直線 l と平面Pが垂直であることを表す図を、平面Pを「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
202	写真	修正	問3の細い棒と三角定規の写真を削除し、「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
202	図	修正	直線 l と平面Pが垂直であることを表す図を、平面Pを「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
202	図	修正	空間内の2面の位置関係を表す図を、断面図で表した。	
203	図	修正	問5の図を断面図で表した。	
203	図	修正	Qのパソコンを、パソコンを横から見た図で表した。	
203	図	修正	2平面P、Qのつくる角を表す図および平面Pと平面Qが垂直であることを表す図を、平面P、Qを、3点A、B、Cを通るように切った断面図で表した。	
203	図	修正	問6の図を、断面図で表した。	
204	2	修正	<p>Qの文章を、次のように変更した。</p> <p>図24で、点Aと直線lとの距離は、どの部分の長さでしょうか。ことばで説明してみましょう。</p>	
204	図	修正	点Aと平面Pとの距離を表す図を、断面図で表した。	
204	図	修正	平行な2平面P、Q間の距離を表す図を、断面図で表した。	
205	図	修正	クローズアップの図において、1つの頂点に正三角形を6個集める矢印を省略した。	
206	写真	修正	Qの写真を、「カルタやトランプを重ねた形」と「硬貨を重ねた形」として、「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
206	図	修正	点が動くと線が、線が動くと面が、面が動くと立体ができることを表した図を、曲線や曲面を、直線や平面に変更し、立体は、「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
206	図	修正	正方形と円を平行に動かしてできる立体を考える図は、正方形と円のみを示し、図の前に「次の図形を紙に垂直に動かしてできる立体を考える。」と挿入した。	
206	17	修正	問1の文章中の「垂線 l 」を、「垂線 l (l は点Aを通っている)」と変更した。	
206	図	修正	問1の図を「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
207	図	修正	Qの図を、回転させる前の直角三角形ABCだけで表した。	
208	図	削除	正三角柱の見取図を削除した。	
208	10 図	修正 削除	<p>問1の問題文を、次のように変更し、図は削除した。</p> <p>次の立体の投影図がどのようなになるか説明しなさい。</p>	

			(1) 底面の1辺が3 cm、高さが5 cmの正四角柱 (2) 底面の半径が2 cm、高さが5 cmの円錐	
209	1	修正	問2の問題文を、次のように変更した。 図41の投影図は、どんな立体を表しているか、それぞれ名称を答えなさい。	
210	4 図	修正	Q(1)の文章中の「見取図と展開図」を「上から見た図と前から見た図および展開図」に変更した。 また、直方体の見取図を「上から見た図」と「前から見た図」で表し、基点となるAに最初に指が触れるように、時計回りに90°回転させた。それに合わせて展開図も時計回りに90°回転させた。	
210	図	修正 削除	Q(2)の円柱の見取図を「上から見た図」と「前から見た図」で表し、円柱を展開している図とアルミ缶のラベルをはがしている図は削除した。	
211	図	削除	円錐の見取図と円錐を展開している途中の図を削除した。	
212	8 図	修正	「5種類の正多面体とその展開図です。」を「5種類の多面体の展開図です。」に変更し、図は展開図のみとした。	
213	9	修正	1の文章中の「右のような」を「次の(ア)～(ウ)のような」と変更した。	
213	図	削除	(ア)～(ウ)の見取図を削除した。	
214	4	修正	Qの文章中の「三角柱の見取図と展開図です。」を「三角柱の展開図です。」に変更した。	
214	図	削除	Qの三角柱の見取図を削除した。	
214	13	修正	問2の文章を次のように変更した。 図54は、底面の半径3 cm、高さ7 cmの円柱の展開図です。この円柱について、底面積、側面積、表面積を求めなさい。ただし、円周率は3.14とします。	
215	19	修正	問4の(1) (2)を次のように変更した。 (1) 底面が1辺6 cmの正方形で、高さが8 cmの正四角柱 (2) 底面が半径2 cmで、高さが5 cmの円柱	
216	2 図	修正 削除	例2の問題文を次のように変更し、図は削除した。 底面の1辺が6 cmの正方形で、側面の二等辺三角形の高さが4 cmの正四角錐の表面積を求めなさい。	
216	15	修正	問5の問題文を次のように変更し、図は削除した。 底面の1辺が10cm、側面の二等辺三角形の高さが12cmの正四角錐の底面積、側面積、表面積をそれぞれ求めなさい。	
216	18	修正	Qの文章を、次のように変更した。 図59のような、底面の半径が5 cm、母線の長さが12cmの円錐があります。この円錐の表面積を求めるには、何がわかればよいでしょうか。	
218	図	削除	原典教科書216ページの図を参照するように指示し、Qの図を削除した。	

221	図	修正	五角形と円を平行に動かして考える図は、五角形と円のみを示し、図の前に「次の図形を紙に垂直に動かして考える。」を挿入した。	
221	図	削除	角柱、円柱の体積の求め方の公式を示す囲みの中の五角柱と円柱の見取図を削除した。	
221	図	修正	問1の見取図は、「上から見た図」のみ表し、高さは文章で挿入した。	
222	図	削除	角錐、円錐の体積の求め方の公式を示す囲みの中の五角錐と円錐の見取図を削除した。	
223	2～3	修正	1の文章を、次のように変更した。 図73のような展開図を3個作り、それを組み立てて四角錐を作りましょう。さらに、それらを組み合わせて立方体を作ってみましょう。	
223	写真	削除	四角錐の展開図のみを示し、写真を削除した。	
223	5	修正	2の文章を、次のように変更した。 図74をのような展開図を6個つくり、それを組み立てて正四角錐を作りましょう。さらに、それらを組み合わせて立方体を作ってみましょう。	
223	図	修正	正四角錐の展開図を示し、正四角錐と立方体の見取図を削除した。	
224	写真	修正	球にひもを巻いた後、それをほどいて巻き直している写真を、巻いたところの前から見た図と、巻き直したところを上から見た図で表した。	
226	図	削除	トライの図を削除した。	
226	15	修正	「右の図の円錐」を「底面の半径が2 cm、母線の長さが4 cmである円錐」に変更した。	
226	図	修正	2の円錐の見取図を、円錐を頂点と底面の中心を通る平面で切った断面図で表した。	
227	14	修正	3の立方体を立方体 $ABCD-EFGH$ とし、立方体を上から見た図を示した。また、問題文を次のように変更した。 図81の立方体 $ABCD-EFGH$ を点A、C、Fを通る平面で切った下の方の立体の投影図について説明しなさい。	
227	17	追加	4の(1)(2)に次の文を追加した。 (1) 底面の半径が2 cm、高さが7 cmの円柱 (2) 底面が1辺6 cmの正方形、側面の二等辺三角形の高さが5 cm、立体の高さが4 cmの正四角錐	
228	5	修正	5(1)の問題文を次のように変更した。 (1) 立体の名称を答えなさい。	
228	16	修正	1(1)の問題文を次のように変更した。 (1) この立体の形を説明しなさい。	
228	18～20	修正	立方体を $ABCD-EFGH$ とし、立方体を上から見た図で示した。また、問題文を次のように変更した。 液体が1.8L入る立方体 $ABCD-EFGH$ (図86)の	

			<p>容器があります。この容器を傾けて水を入れるとき、次の(ア)、(イ)の場合には、それぞれ何L水が入っていますか。その理由も説明しなさい。</p> <p>(ア) 辺FGを下にし、水面が4点B、C、H、Eを通る。</p> <p>(イ) 点Gを下にし、水面が3点C、H、Fを通る。</p>	
229	図	修正	円錐とそれを切り取った立体の見取図を、円錐を頂点と底面の中心を通る平面で切った断面図で表した。	
232	絵	修正	<p>ルーラーキャッチの方法を描いたイラストを削除し、次のように文章化した。</p> <p>ルーラーキャッチの方法</p> <p>① 二人1組になり、向き合って座る。一人は机の横に座る。</p> <p>② 一人は指の間に50cm定規を構える。</p> <p>③ 一人は机の上に腕を置き、人差し指と親指を90°に開く。親指の上部を、定規の0の目盛りの位置に合わせる。</p> <p>④ 号令のあと、10秒以内に定規を落とす。</p> <p>⑤ 落下している定規をキャッチして、つかんだ親指の上部の位置を記録とする。</p>	
235	16	修正	<p>クローズアップの例を、次のように文章化した。</p> <p>例えば、2、2、5、6、…、15、18、19、24 という得点が得られたとする。そのうち、低い方からふたつの2、2、高い方からふたつの19、24を取り除き、4から18までの数の平均値を計算したものが「調整平均」である。</p>	
240	図	修正	ヒストグラムと折れ線グラフの両方の書かれている図は、触察しやすいようにヒストグラムと折れ線グラフの2つに分けた。折れ線グラフを作成する経過がわかるように、ヒストグラムの上の辺の midpoint が目立つように点種を変えた。	
246	図	修正	<p>Qの図中の最頻値や中央値などの文字は、図の中ではA～Dの記号とし、Qの文の最後に、次のように文章を追加した。</p> <p>…何を代表値とすればよいでしょうか。ただし、図中のA～Dは次の値を表します。</p> <p>A 最頻値 150 万人</p> <p>B 中央値 171 万人(鹿児島県)</p> <p>C 平均値 272 万人</p> <p>D 最大値 1316 万人(東京都)」</p>	
247	図	削除	遅い球と速い球のヒストグラムを削除し、問2のヒストグラムの見開きページの左側と右側をそれぞれ参照することにした。	
249	図	修正	クローズアップのヒストグラムと度数折れ線が同時に書かれた図は、触察しやすいように、また、図のあとの文章で度数折れ線に触れられていないので、度数折れ線を削除した。	
254	図	修正	人口ピラミッドのグラフは概形が捉えやすいよう、線で表し、詳しい数値は表に表した。	

255	図	修正	表計算ソフトを用いて、データを並べかえる操作を表した図は、並べかえる前と並べかえる後を別の図にした。																																																	
256	図	削除	例2とそのあとの表計算ソフトの図は削除し、文章のみとした。																																																	
257	図	削除	表計算ソフトの図を削除した。																																																	
264	写真	修正	「くりかえし模様を探せ！」の江戸小紋染工場の写真は削除し、江戸小紋の型紙の一例を図示した。																																																	
264	写真	修正	「エッシャーのペガサス」の図は、その一部を点図化して示した。																																																	
265	図	修正	「世界の数いろいろ」の世界の数字を表した図については、現代とは違う形の数字が使われていたことを確認するために、1、2、3の数字に該当する部分のみを点図で示し、4～10の部分は削除した。	必要に応じて1から10までを示した補助教材を作成することが望まれる。																																																
265	絵	修正 追加	エジプトの数字の絵については、文章を追加した。																																																	
265	図 14～ 16	修正	「地図は最低何色あればぬれる？」の山形県の地図の全体図を示し、さらに一部を拡大して示した。 また、「右の山形県の地図を、となり合う市町村が異なる色になるように、4色でぬり分けてみましょう。」を「図5は山形県の地図の一部をあらわしています。となり合う市町村が異なる色でぬりわけられるか、凸模様の異なるシールを貼って確かめてみましょう。」に変更した。																																																	
266	写真	削除 修正	百人一首の3枚の画像は削除し、和歌は、次のようにピータのセリフの中で示した。 ピータ 小町算の名称は、平安時代の歌人小野小町に由来しています。百人一首には、「花のいろはうつりにけりないたずらにわが身世にふるながめせしまに」という小野小町の歌が選定されています。小町算の由来を調べてみましょう。」																																																	
267	写真	削除 修正	緑センターの写真を削除し、魔方陣の部分のみ次のように点図で示し、8～11行目の文章を以下のように変更した。 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr><td>12</td><td>13</td><td>8</td><td>1</td><td>12</td><td>13</td><td>8</td><td>1</td></tr> <tr><td>6</td><td>3</td><td>10</td><td>15</td><td>6</td><td>3</td><td>10</td><td>15</td></tr> <tr><td>9</td><td>16</td><td>5</td><td>4</td><td>9</td><td>16</td><td>*</td><td>4</td></tr> <tr><td>7</td><td>*</td><td>11</td><td>14</td><td>7</td><td>2</td><td>11</td><td>14</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>8</td><td>1</td><td>*</td><td>13</td><td>8</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>3</td><td>10</td><td>15</td><td>6</td><td>3</td><td>10</td><td>15</td></tr> </table> 東京都小金井市にある緑センターの壁面には、図のような魔法陣がデザインされています。 (4×4)枚の正方形を取り出し、*の部分には適当な数を入れると、どれも縦、横、斜めの4つの数の和が34になります。	12	13	8	1	12	13	8	1	6	3	10	15	6	3	10	15	9	16	5	4	9	16	*	4	7	*	11	14	7	2	11	14	12	13	8	1	*	13	8	1		3	10	15	6	3	10	15	
12	13	8	1	12	13	8	1																																													
6	3	10	15	6	3	10	15																																													
9	16	5	4	9	16	*	4																																													
7	*	11	14	7	2	11	14																																													
12	13	8	1	*	13	8	1																																													
	3	10	15	6	3	10	15																																													
270	写真	削除	桜島の写真は削除し、地図は海岸線のみを点図化した。	桜島の立体的形状を説明する場合は、立体地図などを用いるとよい。																																																
271	図	修正	「しまなみ海道」の地図は、海岸線、道路のみを点																																																	

			図で示した。陸地の部分は点で埋めた。縮尺が問いで指示されているため、図版のサイズは原典教科書通りとした。	
	272	図	修正	車輪の動きを示した3つの図は、変化を読み取りやすくするために、それぞれ時間経過に合わせて移動前と移動後の2つに分けて示した。
	274	写真	削除	アルキメデスの顔写真は削除し、正六角形と円の図のみを示した。
	274	写真	削除	関孝和の顔写真は削除し、人物の説明は本文中に挿入した。
	275		修正	頁の欄外に示されている π の値については、本文の最後に、原典教科書通りに π の値を挿入した。
	276	図	修正	立方体の見取り図は、(ア)～(エ)は「上から見た図」と「前から見た図」で表し、(オ)～(ク)は「前から見た図」のみで表した。
	282	7	修正	2の文章中の「右の図の線分ABを」を「図4のような線分ABをかき、」と変更した。
	293	図	削除 修正	3の見取り図を削除し、次のように文章で表した。 (1) 底面の半径4cm、高さ8cmの円錐 (2) 底面が1辺が10cmの正方形で、側面の二等辺三角形の高さ13cm、立体の高さが12cmの正四角錐 (3) 半径6cmの球
2年	14	5 図	修正	「右の四角柱」を「底面が1辺xcmの正方形で、高さがycmである四角柱」に変更した。
	14	17	修正	囲みの部分(メモ)の中を、次のように表した。 $x^2 - 4x + 3 = x^2 + (-4x) + 3$ 項： x^2 $-4x$ 3 定数項： 3
	15	6	修正	囲みの部分(メモ)の中を、次のように表した。 (1) $2x = 2 \times x$ 文字はxが1個 (2) $-3x^2 = -3 \times x \times x$ 文字はxが2個 (3) $5x^2y = 5 \times x \times x \times y$ 文字はxが2個とyが1個
	15	14	修正	囲みの部分(メモ)の中を、次のように表した。 $x^2 - 4x + 3$ x^2 の次数は2 $-4x$ の次数は1 $+3$ は定数項
	16	9	修正	囲みの部分(メモ)の中を、次のように表した。 $3a + 4b - 2a + 2b$ $3a$ と $-2a$ は同類項 $+4b$ と $+2b$ は同類項
	17	9	修正	例2の右にある囲みの部分(メモ)とピータのセリフは、例2の解答のあとに、次のように挿入した。 ピータ「次のように、同類項を上下にそろえて、縦に計算する方法もあるよ。」

			$\begin{array}{r} x - 2y \\ +) - 3x + 5y \\ \hline - 2x + 3y \end{array}$	
18	2	修正	「符号を書き入れましょう。」を「符号を考えて式を完成させましょう。」に変更した。	
18	6	削除 修正	<p>解答中の吹き出しを削除し、解答の最初に、(式をひくときは、必ずかっこをつける)を挿入した。</p> <p>また、解答のあとに、(メモ)を挿入し、(メモ)の中を次のように表した。</p> <p>同類項を上下にそろえて計算する場合には、次の左の筆算を右の筆算のように考えることができる。</p> <p>(筆算) $\begin{array}{r} 5x - 4y \\ -) 3x - 7y \\ \hline \end{array}$ (筆算) $\begin{array}{r} 5x - 4y \\ +) - 3x + 7y \\ \hline 2x + 3y \end{array}$</p>	
18	17	削除	囲みの「正しいかな?」を削除した。	
21	9	修正	<p>囲みの部分(メモ)の中を、次のように表した。</p> <p>$3a \times 4b = 12ab$ 係数の積：$3 \times 4 = 12$ 文字の積：$a \times b = ab$</p>	
27	7	削除	Qの囲みの中に2つある、 $\square + \square = \square$ の式の1つを削除した。	
30	15～ 20	削除	解答中の注意事項を削除した。	
31	14	削除	例1の解答の右にある囲みの部分(メモ)は、解答の中の説明と重複するため削除した。	
32	5	修正	<p>セリフの内容を、次のように変更した。</p> <p>ピータ「hについて解きやすくするために、まず両辺を入れかえたね。」</p>	
32	10	修正	<p>問4の図を削除し、次のようにピータのセリフを挿入した。</p> <p>ピータ「(1)は、底面積がS、高さがhである錐体の体積Vを表す式、(2)は、縦の長さがa、横の長さがbである長方形の周の長さlを表す式、(3)は、上底の長さがa、下底の長さがb、高さがhである台形の面積Sを表す式だね。」</p>	
34	18 表	修正	カレンダーの中の囲みを省略し、文章中の「○で囲んだ」を「縦に並んだ」に変更した。	
37	絵	修正	地球の絵を、赤道を含む面で切った断面図で表した。	
38	写真	修正	トラックのスタート地点の写真を、トラック全体の図に差し替えた。	
42～43	絵	修正 削除	$\boxed{1}$ のハンバーガーとジュースの絵は、イメージをもたせるために点図化したが、同様の意図で再度出てく	

			る[5]のホットドッグとアイスクリームの絵は削除した。	
44	8	修正	解答の中のコメントは、拓海のセリフとして次のように挿入した。 拓海「見直したときにわかりやすいように、式の書き始めをそろえて書いておこう。」	
45	絵	削除	Qのハンバーガーとジュースの絵を削除した。	
46	6	修正	拓海さんのセリフの文末を「加えているね。」から「加えればいいね。」に変更し、解答の前に挿入した。	
47	10～ 13	削除	例4の右の囲みの部分（メモ）を削除し、解答中のコメントも含めて、考え方の文章を次のように変更した。 ①で、 y は $x-1$ と等しいから、②の y を $x-1$ におきかえる。すなわち、2で、 y に $x-1$ を代入して、 y を消去し、 $x+2(x-1)=7$ とする。（多項式を代入するときは必ずかっこをつける）	
49	8	削除 修正	解答中のコメントを削除し、解答のあとに、次のようにピータのセリフを挿入した。 ピータ「解答の中に、式の説明なども書いておくといね。」	
52	絵	削除	果物の絵を削除した。	
53	10	修正	結衣のセリフを4(2)のあとに挿入した。	
54	図	削除 修正	個数の関係と代金の関係を表した図を削除し、ことばの式の前に、それぞれ（個数の関係）（代金の関係）を挿入した。	
55	12 図	修正 削除	問2(1)の問題文を、次のように修正し、図を削除した。 (1) 問題の中にある数量の関係を見つけ、班の数の関係と人数の関係をことばの式で表しなさい。	
56	図	削除	例1の考え方の図を削除した。	
57	5 図	修正	例2の考え方の図を削除し、次のように表した。 問題にふくまれている数量の関係は、次のようになる。 (自転車で走った道のり) + (歩いた道のり) = 12km (自転車で走った時間) + (歩いた時間) = 1時間15分 自転車で走った速さ：18km/h 歩いた速さ：4km/h	
57	8	修正	例2の解答のふきだしは、(メモ)として解答のあとに挿入した。	
59	絵	削除	ビーカーの絵を削除した。	
59		修正	ふりかえりは、食塩の濃度の公式のみを、例4の問題文のあとに入れ、[例1]、[例2]は(ふりかえり例1)(ふりかえり例2)とし、絵を削除した上で、次の文章を例4の解答のあとに挿入した。 (ふりかえり例1)	

			<p>水 80g に食塩 20g を溶かしたときの食塩水 100g の濃度は 20% になる。</p> <p>(ふりかえり例 2)</p> <p>15% の食塩水 200g は、水 170g に 30g の食塩が溶けてできている。</p>	
64	図	削除	(512×512) 個に分割した図を削除した。	
64	14	修正	<p>「調べる部分を…」から始まる 1 文を次のように修正し、四分割した図から、矢印と値を削除した。</p> <p>調べる部分を図 6 のように A、B、C、D の 4 つとして、X 線をさまざまな方向からあてたとき、それぞれ次のような値が出ました。</p> <p>A から B にむかってあてたとき 6 C から D にむかってあてたとき 4 A から C にむかってあてたとき 7 B から C にむかってあてたとき 5</p> <p>この関係を連立方程式で表すと、次のようになります。</p>	
65		修正	問題に対して選択する項目に、左からア、イ、ウ、と符号を付けた。	
66～67 68	写真 図	削除	鍾乳洞の写真と鍾乳石の長さを表す図を削除した。	
68	20	修正	<p>囲みの部分 (メモ) の中を、次のように表した。</p> $y = a x + b$ <p>a x は x に比例する部分 b は定数の部分</p>	
69	図	修正	問 2 の線香の図を、火をつける前と x 分後に分けて点図化した。	
70	表	修正	<p>Q の表の上下の矢印を省略し、次の文章を表のあとに挿入した。</p> <p>x の値が -3 から -2 まで 1 増加したとき、y の値は -3 から -1 まで 2 増加している。</p> <p>x の値が -2 から -1 まで、-1 から 0 まで、0 から 1 まで、1 から 2 まで、2 から 3 まで、1 ずつ増加したとき、y の値はそれぞれ□増加している。</p>	
70	表	修正	例 1 の解答中の表の上下の矢印を省略した。	
72	図	修正	<p>表からグラフへの矢印を、次のように文章で表した。</p> <p>x = 4、y = 11 の組を座標で表すと、(4、11) この点を図で表すと、図 2 になる。</p> <p>さらに、方眼の大きさを考慮し、$-5 \leq y \leq 12$ の範囲の方眼とした。そのため、表中の x = -4、y = -5 も省略した。</p>	
72	7	修正	方眼の範囲を狭くしたため、問 1 の「x の値を -4 から 4 まで」を「x の値を -3 から 4 まで」に変更した。	
73	10～ 11	修正	Q の「上の図にかき入れてみましょう。」を「図 3 にかくとどうなるか考えてみましょう。」に変更した。	

73	図	修正	$y = 2x + 3$ と $y = 2x$ のグラフを比較したグラフについて、対応する点の移動のみを表した図と、2本の直線のみを表した図に分けた。														
74	図	修正	$y = ax + b$ のグラフのまとめの図で、y軸の正の向きに b だけ平行移動していることを示す矢印を、第1象限に1本追加した。														
74	図	修正	$y = ax + b$ の切片を表す図の中の、「切片」の言葉を省略した。														
75	図	修正	Qの図について、 x の値が1増加したときと、 x の値が3増加したときを分けて表した。														
75	図	修正	問6の図について、 x の値が1増加したときと、 x の値が3増加したときを分けて表した。														
76	10	修正	拓海さんのセリフを、次のように変更した。 拓海「(垂直距離)を(y の増加量)、(水平距離)を(x の増加量)と考えればいいね。」														
77	9	修正	表と式とグラフの関係を次のように表した。 (表) 表9 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>x</td> <td>...</td> <td>-1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>...</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>-1</td> <td>...</td> </tr> </table> (ア) $x = \square$ のときの y の値 3 (イ) x の値が1増加したときの y の増加量-2 (変化の割合) (式) $y = -2x + 3$ (ア) 定数の部分 3 (イ) x の□ -2 (グラフ) (図15) (ア) グラフとy軸との交点のy座標3...□ (イ) x が1進んだときの y の変化量-2...傾き	x	...	-1	0	1	2	...	y	...	5	3	1	-1	...
x	...	-1	0	1	2	...											
y	...	5	3	1	-1	...											
79	図	修正	ふりかえりの図の前に、次の文を追加した。 $2 \leq x$ 、 $2 < x$ を数直線上に表すと、図15のようになる。														
80	図 7	修正	Qのグラフについて、全体を捉えるグラフの1目盛りを5としたため、 $0 \leq x \leq 5$ の範囲のグラフを別に拡大して載せ、Qの問題文の「 x と y の関係を表したものです。」を「 x と y の関係を表したもので、図16(1)は $0 \leq x \leq 30$ のとき、(2)は $0 \leq x \leq 5$ のときのグラフです。」に変更した。														
81	図	修正	問1の直線を、①と②を表す図と、③と④を表す図の2枚に分けて表した。														
83	図	削除	ばねののびを示す図を削除した。														
92	4 写真	修正 削除	「右の図のような装置で水を熱し」を「ピーカーに入れた水をガスバーナーで熱し」に変更し、装置の写真を削除した。														
95	6	修正	ピータのセリフを問2(3)の後に挿入した。														
96	図	修正	2の図の軸の数字を横軸は15、40、60のみ、縦軸は1200のみとした。														
97	図	修正	ダイアグラムの図の前に次の文章を追加し、ダイアグラムの図を4枚に分けて載せた。														

			ただし、図 44 のダイヤグラムには1. ～4. の列車がA駅～H駅間の運行のようすが表されており、 (ア)は4つの列車の運行のようす (イ)は3. の列車の運行のようす (ウ)は2. の列車と4. の列車の運行のようす (エ)は1. の列車と2. の列車の運行のようすが表されている。	
99	表	修正	表を次のように表した。 Aプラン 基本使用料 1600 円 通話料 1分当たり 50 円 Bプラン 基本使用料 3600 円 通話料 25分まで無料 25分を越えた時間について、1分当たり 40 円	
100	表	修正	表の枠を省略し、A印刷、B印刷、C印刷のセリフの形式にした。	
101	図	修正	グラフの軸上の数値を交点の位置のみとした。	
102	6	修正	「ガソリン代を求め、表に書き入れましょう。」を「ガソリン代を求めましょう。」に変更した。	
104	写真	削除	文様の写真を削除した。	
105	写真	修正	正三角形を敷き詰めたタイルの写真を図に変更した。	
105	2～3	修正	2 の文章を、次のように表した。 図2、図3は、合同な三角形をしきつめてできた模様です。○ページの図1の三角形と合同な三角形を作り、平面をしきつめてみましょう。	授業で扱うときは紙で作るのではなく、積み木などを使用する。
106	図	削除	対頂角が等しくなる説明をしている図を削除した。	
107	図	削除	クローズアップの図を削除した。	
108	図 10～ 12	削除 修正	2つ目のQの、平行な直線1、mの図を削除し、Qではそのあとの図を参照することとし、文章を、次のように変更した。 次の図12で、 $1 \parallel m$ です。2直線1、mに交わる直線nを引いたとき、同位角の大きさを調べてみましょう。	
110	図	削除	「平行線の性質」「平行線になるための条件」の図を削除した。	
112	図	修正	「三角形の角の性質」の図において、○はaに、●はbに置きかえた。	
113	図	修正	分度器を使って鋭角と鈍角をしている図から分度器を削除し、ひとつの図にまとめた。	
115	図	修正	n角形の図を、原図より頂点を1つ増やした。	
116	図	修正	クローズアップの最初にある3つの図を削除し、3つの分け方に番号をつけて掲載した。 また、パソコン画面上で点Pを動かしている挿絵は、画面中の図だけを左から順に点図化した。その際、2番目の図のコメントを「点Pを五角形の内部に動かした」に変更した。	

116	絵	削除	ピータの絵とセリフを削除した。	
117	図	修正	4コマフィルムの図のうち、1コマ目の図を削除し、他の3コマの図を点図化した。	
118	図	削除	問7の図を削除した。	
118	19	修正	「……頂点では向きを変えて1周させてみましょう。」のあとに、以下の文を挿入した。 ① 辺ABにあわせて鉛筆XYを、AとXが重なるように置く。 ② 鉛筆XYを辺ABに沿って、XがBに重なるまで平行移動する（鉛筆XYは辺ABの延長線上にある）。 ③ Xを中心に、∠Bの外角の分だけ鉛筆XYを反時計回りに回転する。 以後、頂点C、D、E、Fにおいて、同様の操作を繰り返す。	
120	4	修正	「巻末③にある△ABCの図を切り取り、調べてみましょう。」を「△ABCと合同な三角形を作り、調べてみましょう。」に変更した。	△ABCは厚紙で作成し、図に重ねて調べるとよい。
124	3	修正	「三角形の合同条件」は見開きの左ページに文、右ページに図がくるように配置した。	
126	図	削除	「説明」内の図を削除した。	
127	12	修正	「(青の下線)の部分 ¹ を仮定、(赤の下線)の部分 ² を結論という。」を以下のように変更した。 「AO=BO、CO=DO」を「仮定」、「AC=BD」を「結論」という。	
127	16	修正	囲みの部分(メモ)の内容を、次のように表した。 「仮定」ならば、「結論」	
127	20	修正	「次のことがらを図に表し」を「次のことがらを表す図を考え」に変更した。	
128	10～22	修正	「証明」と「証明の筋道」を並列させている部分については、まず証明をかき、そのあとに、次のように「証明の筋道」を書いた。 この証明の筋道 ① 仮定 ② 平行線の性質 ③ 対頂角の性質 ④ 三角形の合同条件 ⑤ 合同な図形の性質 ⑥ 結論(①～⑤より導かれる) ①～⑤は根拠となることがらである。	
126	24	修正	手順の1を、次のように変更した。 図を正しくイメージする、またはかかっている図を正確によむ。	
131～132	図	削除	「対頂角の性質」、「平行線の性質」、「平行線になるための条件」、「三角形の角の性質」、「合同な図形の性質」、「三角形の合同条件」のそれぞれに示されている重要な枠を、全体を通して一つの枠とした。また、そ	

			それぞれの図を削除した。	
136	絵	削除 修正	ターレスの方法を示した絵を、人や船を削除し、上から見た図に変更した。	
136	図	削除	絵の下にある図を削除した。	
139	2	修正	「いろいろな三角形や四角形」を「二等辺三角形、正三角形、平行四辺形、ひし形、台形など」に変更した。	
139	図	修正	<p>折り方を示した図について、(ア) 二等辺三角形、(イ) 正三角形、(ウ) 平行四辺形とし、それぞれの折り方に次のようにコメントをつけた。また、平行四辺形の3つ目の図を省略した。</p> <p>(ア) 二等辺三角形</p> <p>(1) 折る</p> <p>(2) 折る</p> <p>(3) 広げる</p> <p>(イ) 正三角形</p> <p>(1) 折り目をつける</p> <p>(2) 折った様子</p> <p>(3) どんな操作をすると次のようになるかな？</p> <p>(ウ) 平行四辺形</p> <p>(1) 折る</p> <p>(2) 折る</p> <p>(3) 広げて線分でつなぐ</p>	
144	13	追加	Qの問題の文末に、(図 15 の記号を利用してよい)を追加した。	
144	19～ 20	修正	仮定と結論の囲み、矢印を省略した。	
145	16	修正	「上のことがら」を「 $a > 0$ ならば、 $a > 0$ 、 $b > 0$ である」ということがらに変更した。	
148	図	削除	問1の図を削除し、前掲の図を参照するように指示した。	
151	7	修正	「巻末④の図を切り取って」を「図 29 の平行四辺形 ABCD と合同な図を作り、」に変更した。	
152	図	削除	平行四辺形の図を削除し、前掲の図を参照するように指示した。	
152	9	修正	「必要な線を図にかき入れて考えなさい。」を「必要な線を加えて考えなさい。」に変更した。	
154	20 図	修正	<p>問7の図をかき込む枠を省略し、平行四辺形 ABCD と2つの対角線および1本の直線をかいた。</p> <p>また、(1)の問題を次のように変更した。</p> <p>次の図 36 で、点 O、P、Q の位置を考えなさい。</p>	
156	図	削除	例1の四角形の図を削除し、前掲の図を参照するように指示した。	
159	3～ 4 表	修正 削除	<p>Qの問題文を次のように変更し、表は省略した。</p> <p>平行四辺形、長方形、ひし形、正方形について、つねにもっている性質を、次の(ア)～(ウ)からすべて選びましょう。</p> <p>(ア) 2組の対辺がそれぞれ平行である</p> <p>(イ) 4つの辺が等しい</p>	

			(ウ) 4つの角が等しい (例) 平行四辺形 (ア)																			
160	8	修正	結衣のセリフを、例1の証明の前に挿入した。																			
161	図	修正	3の図の矢印を省略し、図形の前に名称を追加した。																			
163	図	削除	正方形の図を削除し、前掲の図を参照するように指示した。																			
164	4 図	修正	「矢印の方向」を「右の方向」に変更し、図の中の矢印を省略した。																			
168	図	削除	証明の部分の図を削除し、問題の図のみを残した。																			
168	9 16	修正	9行目の下線を省略し、「」に入れた。そのため、16行目の「上の証明の下線部「仮定から」」を「証明の「仮定から」」に変更した。																			
169	図	削除	パソコンのディスプレイを表す2つの図を削除した。																			
170	図	削除	2の証明の図を削除した。																			
171	図	修正	組み合わせの樹形図内で、文字に斜線が引いてある部分は「めめ」で消した。																			
173	2	修正	「(ア)～(カ)のうちのどれに」を「(ア)～(カ)の目の出方のうちのどれに」に変更した。																			
173	図	修正	(ア)～(カ)の選択枝の図を文字のみにした。																			
173	4	修正	2の文章を、次のように変更した。 図1の展開図を組み立ててさいころをつくり、実験をしてみましょう。また、(ア)～(カ)の出た回数を表にまとめてみましょう。	さいころの展開図は厚紙で作る。																		
175	14	修正	問2の王冠の写真を削除し、「王冠を投げて」を「王冠(びんのふた)を投げて」に変更した。																			
176	写真 18	修正	問1のさいころの写真を展開図に変更し、(1)問題文を次のように変更した。 次の図3の展開図を組み立てたさいころを投げたとき、1から6のそれぞれの目が出ること																			
177	図	削除	さいころの図を削除した。																			
177	6	修正	「右の図のように3通りあるから」を「2、4、6の3通りあるから」に変更した。																			
178	図	削除	問4の袋の図を削除した。																			
179	図	差し替え	Qの袋の図を削除し、以下のような表に差し替えた。 表4 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr><tr><td>赤玉(個)</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>白玉(個)</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>		A	B	C	D	E	赤玉(個)	4	3	2	1	0	白玉(個)	0	1	2	3	4	
	A	B	C	D	E																	
赤玉(個)	4	3	2	1	0																	
白玉(個)	0	1	2	3	4																	
180	5～ 7	修正	本文中のさいころの目の図について、6は削除し、1～5については数字のみに変更した。																			
181	表	修正	(ア)の表を、次のように変更した。 (ア) 表をつくって出方を調べる 表5 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td></td><td colspan="2">B</td><td></td></tr><tr><td>A</td><td>表</td><td></td><td>裏</td></tr><tr><td>表</td><td>(お、お)</td><td></td><td>(お、う)</td></tr><tr><td>裏</td><td>(う、お)</td><td></td><td>(う、う)</td></tr></table>		B			A	表		裏	表	(お、お)		(お、う)	裏	(う、お)		(う、う)			
	B																					
A	表		裏																			
表	(お、お)		(お、う)																			
裏	(う、お)		(う、う)																			

	181	10～13	修正	文章内の「○」を「表」、「×」を「裏」と書き換えた。	
	181	図	修正	181 ページの文章のあとに、点字の樹形図の書き方の説明を挿入した。	
	183	表	修正	さいころの目の図を数字のみに変更した。	
	185	8	修正	例3の考え方のあとに、結衣のセリフと樹形図を挿入した。	
	185	図	修正	樹形図内で文字に斜線が引いてある部分は「A」のように現した。	
	186	図	修正	(ア)～(カ)の選択枝の図を文字のみにした。	
	188	2	修正	1の問題文を、次のように変更した。 あるボタンを投げる実験を行ったところ、投げる回数が増えるにつれて、表が出た相対度数が 0.53 に近づくようになりました。このボタンを投げるとき、表が出る確率と裏が出る確率は、それぞれいくらと考えられますか。	
	189	17	修正	規則の説明の「矢印の向き」を「反時計まわり」に、「矢印と反対の向き」を「時計まわり」に変更した。	
	193	図	修正	さいころの目の図を数字のみに変更した。	
	193	絵	削除	ガリレオ・ガリレイの絵を削除し、(1564～1642)は文章中に挿入した。	
	201	絵 写真	削除 修正	カーナビのイラストと準天頂衛星初号機「みちびき」の画像は削除し、次のように文章化した。 衛星により位置を特定するためには、最低4機の人工衛星から信号を受信する必要があります。準天頂衛星初号機「みちびき」はそうした衛星の一つです。「準天頂衛星」とは、日本のほぼ天頂(真上)を通る軌道を持つ人工衛星のことです。	
	203	4～5 写真	修正	「鶴亀算」中の図を削除し、本文中の「次のような問題があります。」を「雉と兎が同じ籠にいる。頭が35、足が94のとき、雉と兎の数はそれぞれいくらか。」という意味の問題が示されています。	
	210～211	図	修正	日本の年平均気温の平年差のグラフは、折れ線の変化が識別できる程度に簡略化して示した。	
	217	表	修正	乱数表は4分割して、4ページで示した。	
	218～219		修正	点字については既知の内容であるため、「点字の仕組みを確認しよう」とタイトルを修正し、点字の仕組みについて復習する内容とし、本文を修正した。点字の表示を示した写真は削除した。	
	228	22	修正	6の問題文の「右の図のように、番号が書かれないが一列に並んでいます。」を「1から5までの番号が1つずつ書かれた5つのいすが一列に並んでいます。」に変更した。	
3年	10		修正	【同類項】の部分における式の例を、次のように表した。 $3a + 4b - 2a + b$ において、 $3a$ と $-2a$ 、 $+4b$ と $+b$ は同類項	

12	写真	削除	正岡子規の写真を削除し、本文中に（1867～1902）を挿入した。	
14	15	修正	（ふりかえり）の矢印を削除した。	
14	17	削除	例1（1）の囲みの部分（メモに相当）を、削除した。	
16	5 8	修正	式の下にある（ア）（イ）（ウ）（エ）は省略し、本文を次のように変更した。 Qで、全体の面積を表す式は、（縦）×（横）や、図中の（ア）+（イ）+（ウ）+（エ）で表すことができるから、次の式が成り立つ。	
16	18	修正	青い背景の部分の矢印と番号を削除し、20行目のあとに挿入した。	
17	1	削除	例2の囲みの部分（メモに相当）は削除した。	
17	18	削除	例4の囲みの部分（メモに相当）は削除した。	
18	10	修正	例1（1）の囲みの部分（メモ）の中を、次のように表した。 $(x+2)(x+4) = x^2 + 6x + 8$ 右辺のxの係数6は左辺の2と4を加えたもの 右辺の定数項8は左辺の2と4をかけたもの	
18	13	修正	例1（2）の囲みの部分（メモ）の中を次のように表した。 公式①のaを3、bを-5におきかえる	
19	2	修正	囲みの部分（メモ）の中を次のように表した。 公式①のbをaにおきかえる	
19	4	修正	「あてはまるものを書き入れてみましょう」を「あてはまるものを入れ、完成した式を書きましょう」に変更した。	
19	17	修正	例2（1）の囲みの部分（メモ）の中を次のように表した。 $(x+3)^2 = x^2 + 6x + 9$ 右辺のxの係数6は左辺の3を2倍したもの 右辺の定数項9は左辺の3を2乗したもの	
19	20	修正	例2（2）の囲みの部分（メモ）の中を次のように表した。 $(x-5)^2 = x^2 - 10x + 25$ 右辺のxの係数10は左辺の5を2倍したもの 右辺の定数項25は左辺の5を2乗したもの	
20	1	修正	Qの囲みの部分（メモ）の中を次のように表し、Qのあとに挿入した。 公式①の+bを-aにおきかえる	
20	4～ 5	修正	「あてはまるものを書き入れてみましょう」を「あてはまるものを入れ、完成した式を書きましょう」に変更した。	
21	22	修正	囲みの部分の（正しいかな？）を削除した。	
22	3～ 4	削除	考え方の中の $(x+y+5)(x+y-2) = (x+y)^2 + 3(x+y)$	解答の中の説明と重複するため。

			-10 (M+5)(M-2)=M ² +3M-10 を削除した。	
23	11～ 21	差し 替え	クローズアップの除法の筆算を削除し、次のように 計算の手順を挿入した。 x ² +3x-10…① x-2…② まず、割られる式の次数が1番高い項に着目し、そ の項を消すことを考える。つまり、①のx ² を消すこ とを考える。 割る式②にxをかけるとx ² -2x…③ ①から③を引くと5x-10…④ 次に④の5xを消すことを考える。 割る式②に5をかけると5x-10…⑤ ④から⑤を引くと0 よって商はx+5である。	
25	12	修正	(ふりかえり)を13行目の後に挿入した。	
26	1	修正	例1の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。 墨字では次のように計算するが、点字では右側のよ うにしてもよい。 $\begin{array}{r} 2 \) \ 150 \\ 3 \) \ 75 \\ 5 \) \ 25 \\ \hline 5 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 150 \ 2 \\ 75 \ 3 \\ 25 \ 5 \\ \hline 5 \end{array}$	
27	4	削除	文章中の「巻末②の図を切り取って使いましょう。」 を削除した。	学習の際は、巻末の切り 抜き教材の代わりに積 み木や厚みのある紙で 代用することが望まし い。
27	5～ 10	修正	Q(1)、(2)、(3)の各文章中の「1つの長方形を つくりましょう。」を「1つの長方形をつくることを 考えましょう。」に変更した。	
28	18	修正	囲みの部分の矢印を削除し、次のような文章に修正 した。 x ² +3x+2を因数分解すると(x+1)(x+ 2)になる。 (x+1)(x+2)を展開するとx ² +3x+2に なる。 x ² +3x+2は単項式の和の形 (x+1)(x+2)は因数の積の形	
29	12	削除	例3の囲みの部分(メモ)は削除した。	
30	3	修正	例1の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。 公式①´において、a+bが6、abが8の場合	
31	2	修正	例3の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。 公式②´において、aが3の場合	
31	13	修正	例4の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。 公式④´において、aが4の場合	

32	2	修正	<p>例5(1)の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。</p> <p>2xをA、3をBとすると $A^2 - 2AB + B^2 = (A - B)^2$</p>	
32	5	修正	<p>例5(2)の囲みの部分(メモ)の中を次のように表した。</p> <p>3xをA、2yをBとすると $A^2 - B^2 = (A + B)(A - B)$</p>	
32	15～ 18	修正	<p>例6の解答中の、(式の説明なども書いておこう。)を(計算の手順もまとめておこう。)と変更し、解答のあとに挿入した。</p>	
37	6～ 7	修正	<p>証明の中に、次のように空欄を挿入し、文章を「(ア)□ (イ)□をうめて、結衣さんの証明を完成させましょう。」に変更した。</p> <p>$2n(2n+2)+1$ =(ア) <input type="text"/> =(イ) <input type="text"/></p>	
38	1～ 5	修正	<p>問1の囲みの中にある矢印を削除し、囲みの中を次のように修正した。</p> <p>3つの整数が6、7、8のとき、 $7^2 - 1 = 48$ $6 \times 8 = 48$</p>	
39	17	削除	<p>例2の証明の中のメモ「分数は2行使って書こう。」は削除した。</p>	
40	8	追加	<p>8行目の後に、結衣のセリフを次のように挿入した。</p> <p>結衣「問6と同じように考えられないかな？」</p>	
42	4	修正	<p>「色のついた部分の面積を」を「裏に出した点でうめた部分の面積を」に変更した。</p>	
43	図	修正	<p>「裏返す」の図を削除した。また、原典教科書の図と同様に、表の「4」、「5」、裏の「3」、「6」の点字表記を、上下逆向きにした。</p>	
43	5～ 7	修正	<p>文章を次のように変更した。</p> <p>ページ番号をつけた紙を、次のような手順で4つ折りにして上端を切ると、1から8までのページ番号がついたものができます。これをいくつか束ねると、冊子ができます。</p> <p>折り方の手順 図21において中央の横線を山折りにする。(図22) 次に、図22において中央の縦線を山折りにする。(図23)</p>	
44	3	修正	<p>「同じ計算を次のような方法で行うこともできます。」のあとの計算の説明を次のように変更した。</p> <p>十の位の数どうしをかけて $3 \times 5 = 15 \cdots \textcircled{1}$</p>	

			<p>一の位の数どうしをかけて $4 \times 6 = 24 \cdots \textcircled{2}$ 十の位の数と一の位の数とを斜めにかけて $3 \times 6 = 18 \cdots \textcircled{3}$ $4 \times 5 = 20 \cdots \textcircled{4}$</p> $\begin{array}{r} 34 \\ \times 56 \\ \hline 1524 \cdots \textcircled{1}\textcircled{2} \\ 18 \cdots \textcircled{3} \\ \hline 20 \cdots \textcircled{4} \\ \hline 1904 \end{array}$	
45	1～3	修正	<p>34×36の筆算の中の矢印は削除し、「$3 \times (3 + 1)$」と「4×6」を次のように変更した。</p> $12 = 3 \times (3 + 1)$ $24 = 4 \times 6$	
46	5	修正	「正方形をつくってみましょう。」を「正方形をつくることを考えてみましょう。」に変更した。	学習の際は、厚みのある紙を使うなどすることが望ましい。
47	4	修正	「1でかいた正方形の1辺の長さを、それぞれ測ってみましょう。」を「1で考えた正方形の1辺の長さを、それぞれ調べてみましょう。」に変更した。	
49	3	修正	電卓の写真を削除し、文章中の「右のように」を「2. 2 3 6 0 6 7 9 7 7 4 9のように」に変更した。	
49	13	削除	囲みの部分（メモに相当）は、本文の説明と重複するため削除した。	
50	図	削除	囲みの部分（メモに相当）は、本文の説明と重複するため削除した。	
51	3～7 図	修正	<p>Qの文章を、次のように変更した。また、図の中のコンパスは省略し、(ア)と(イ)の図を2つに分けた。</p> <p>図7の2つの正方形(ア)、(イ)の1辺の長さは、それぞれ$\sqrt{2}$、$\sqrt{5}$です。それぞれ下の数直線を利用して、2つの長さを比べてみましょう。</p>	
54	12～13 18	修正 削除	<p>「循環小数は、くりかえされる並びの最初と最後の数字の上に・をつけて、次のように表すことがあります。」を「循環小数は、循環する部分が変わるように、くりかえされる並びの最初の数字の前に記号「・」をつけ、最後の数字までかいてその数字は省略して次のように表すことがあります。」と変更した。</p> <p>また、(注)として、墨字での表記方法を挿入した。</p> <p>さらに、クローズアップの中の囲みの部分を削除した。</p>	
55	11	修正	<p>囲みに部分（メモ）の中を次のように表した。</p> $(\sqrt{2} \times \sqrt{5})^2 = 2 \times 5 \text{である。}$	

			また、 $(\sqrt{2} \times \sqrt{5})^2$ の正の平方根は $\sqrt{2} \times \sqrt{5}$ である。	
56	15	修正	(ふりかえり)の中を次のように表した。 $\begin{array}{r} 180 \quad 2 \\ 90 \quad 2 \\ 45 \quad 3 \\ 15 \quad 3 \\ \quad 5 \\ 180 = 2^2 \times 3^3 \times 5 \end{array}$	
57	9	修正	囲みの部分(メモに相当)を(メモ)とせずに本文に続けた。	
59	4～6	修正	Qの空欄を削除した。	
59	9	修正	囲みの部分(メモ)の中の矢印を削除した。	
59	21	修正 削除 追加	「平方根の記号は」を「墨字の平方根の記号は」に変更した。 また、ルドルフの「代数」の一部を示した部分は削除し、墨字のrと√の点図を追加した。	
60	10	修正	囲みの部分(メモ)の中の矢印を削除し、次のように表した。 $3a + 4a = (3 + 4)a$ aを $\sqrt{2}$ におきかえる。 $3\sqrt{2} + 4\sqrt{2} = (3 + 4)\sqrt{2}$	
63	2～6	修正	例6の左側の解答を「解答1」、右側の解答を「解答2」として、解答1のあとに解答2を挿入した。	
64	図	修正	四角形の頂点を左上から順にA、B、C、Dとした。 図中の矢印を削除し、順に(ア)から(エ)の記号をつけ、次のように折り方の説明を加えた。 (イ) 辺ABが辺BCに重なるように折る。 (エ) 辺BCが(3)の折り目に重なるように折る。 また、ピータのセリフの「1本目の折り線」を「図16(ウ)の折り線」に変更した。	
65	写真	修正 削除	集計用紙、教科書、ノートの写真をそれぞれB4版、B5版、B6版という文字を入れた長方形の図で表した。 コピー機の写真は削除した。	
70	8 写真	削除	文章中の「右の図のように」を削除し、姫だるまの写真を削除した。	
70	表	修正	シャッタースピードと絞り値の表を、次のように表した。 シャッタースピード(秒) 遅い方から順に $\frac{1}{15} \quad \frac{1}{30} \quad \frac{1}{60} \quad \frac{1}{125} \quad \frac{1}{250} \quad \frac{1}{500} \quad \frac{1}{1000}$ $\frac{1}{2000}$ 絞り値 小さい方から順に F1 F1.4 F2 F2.8 F4 F5.6 F8 F11 F16	

71	写真 絵	削除	1の曲尺の写真を削除し、表目と裏目のみを点図化した。 2で、丸太に曲尺を合わせている絵を削除した。
73	絵	削除	太陽電池のセル、モジュール、アレイの絵を削除した。
74	4 絵	削除	文章中の「右の図のように」を削除し、花だんの絵を削除した。
75	2～ 4	修正	3行目の「1から9までの整数を代入して」の後に、「左辺の値が正になるか負になるか0になるかを確かめて」を挿入し、下の表は省略した。
78	13～ 16	削除	解答中の注意事項「見直したときに・・・書いておこう。」は削除した。
79	15	削除	囲みの部分の（正しいかな？）を削除した。
81	9	修正	例2の囲みの部分（メモ）の部分は、解答の内容と重複するため、削除した。
82	8	修正	例4の囲みの部分（メモ）の中の矢印を削除し、次のように表した。 $x^2 + 6x = 5$ $x \text{ の係数の } \frac{1}{2} \text{ の } 2 \text{ 乗を両辺に加える。}$ $x^2 + 6x + 3^2 = 5 + 3^2$
82	2	修正	「書き入れてみましょう」を「考えてみましょう」に変更した。
84	2～ 17	修正	$3x^2 + 5x + 1 = 0$ の解のあとに、 $ax^2 + bx + c = 0$ の解を書いた。また、式変形の間の矢印を削除し、コメントを（・・・）で両方の式変形の行間に挿入した。
91	11 図	削除	例2の解答中の注意事項「説明をわかりやすくするために、図をきちんとかいておこう。」は削除した。 また、解答中の1つめの図を削除した。
91	図	修正	問4の図を正面から見た図に差し替え、「切り口の長方形」と表した。
96	図	修正	六角形の図は、対角線をわかりやすくするために、正六角形で表した。
97	2 表	修正	「次のそれぞれの関数で、式、グラフ、値の変化についてあてはまるものを下から選び、□に書き入れてみましょう。」を、次のように変更した。 次の関数について、式、グラフ、値の変化の特徴を、あとの選択肢からそれぞれ選び、まとめましょう。 1. 比例 2. 反比例 3. 1次関数
98	5	修正	1の文章を次のように変更した。 ボールを斜面で転がす実験をしました。次の図1と表1は、転がり始めてから1秒ごとのボールの位置を示したものです。
98	図	修正	坂道を下る様子を表した図を、略図（図1）と次のような表で表した。

			<p>表1</p> <table> <tr> <td>時間</td> <td>距離</td> </tr> <tr> <td>0秒</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>1秒</td> <td>1m</td> </tr> <tr> <td>2秒</td> <td>4m</td> </tr> <tr> <td>3秒</td> <td>9m</td> </tr> <tr> <td>4秒</td> <td>16m</td> </tr> <tr> <td>5秒</td> <td>25m</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </table>	時間	距離	0秒	0m	1秒	1m	2秒	4m	3秒	9m	4秒	16m	5秒	25m	
時間	距離																			
0秒	0m																			
1秒	1m																			
2秒	4m																			
3秒	9m																			
4秒	16m																			
5秒	25m																			
...	...																			
98	6	修正	<p>1(1)の文章を次のように変更した。</p> <p>図1と表1より、転がり始めてからx秒間に転がる距離をymとして、表2を完成させましょう。</p>																	
101	図	削除	例1の立方体の図を削除した。																	
101	図	削除	問1の円の図を削除した。																	
104	1 表	修正 削除	問1の「次の表を完成させなさい。」を「表をつくりなさい。」に変更し、表を削除した。																	
106	3	修正	Qの「前ページの図にかき入れ、」を「〇〇ページの図6を参考にかき、」に変更した。																	
107	3	修正	Qの「 $y = -x^2$ のグラフを、次ページの図にかき入れ、 $y = x^2$ のグラフと比べてみましょう。」を「 $y = -x^2$ のグラフをかき、〇〇ページの図8の $y = x^2$ のグラフと比べてみましょう。」に変更した。																	
107	16	修正	<p>問4の「$y = \frac{1}{2}x^2$のグラフをもとにして、$y = -\frac{1}{2}x^2$のグラフを、次ページの図にかき入れなさい。」を</p> <p>「〇〇ページの図8の$y = \frac{1}{2}x^2$のグラフをもとにして、</p> <p>$y = -\frac{1}{2}x^2$のグラフをかきなさい。」に変更した。</p>																	
109	図	修正	問6の方眼を省略し、x軸とy軸、グラフのみを示した。	これ以降、大部分のグラフについて、方眼を省略した。																
110	写真	修正	投げ上げたボールの写真と飛行機の先端部の写真を略図化し、それぞれの図中に「斜め上に投げ上げたボールの動き」「飛行機の先端部を横から見た図」と記した。																	
110	図 写真	修正	橋の図を略図化し、図中に「橋を横から見た図」と記した。また、懸垂線の写真は略図化した。																	
110	写真	削除	パラボリアンテナの写真を削除し、図のみとした。																	
111	図	修正	Qおよび問2の図で、方眼と目盛りを省略した。																	
111	14	修正	問1の「105ページの図にかき入れたグラフを使って調べなさい。」を「〇〇ページの図8のグラフを使って調べなさい。」に変更した。																	
112	図	修正	解答の図の方眼を省略した。また、x軸上の-4、2の目盛りを削除した。y軸上の2の目盛りを削除し、1の目盛りを追加した。																	

112	19	修正	<p>ピータのセリフを、次のように変更した。</p> <p>ピータ「〇〇ページの間2 1. 〇〇ページの間4 でかいたグラフを利用しよう。」</p>																									
113	9 表	修正	<p>表の矢印を省略し、次のように表した。また、表の前に、</p> <p>「図20は、xの増加量に対するyの増加量をグラフにおいて調べたものである。」を追加した。</p> <p>表8</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>x</td> <td>-3</td> <td>-2</td> <td>-1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>yの増加量</td> <td>-5</td> <td>-3</td> <td>-1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> <td></td> </tr> </table>	x	-3	-2	-1	0	1	2	3	y	9	4	1	0	1	4	9	yの増加量	-5	-3	-1	1	3	5		
x	-3	-2	-1	0	1	2	3																					
y	9	4	1	0	1	4	9																					
yの増加量	-5	-3	-1	1	3	5																						
116	2	修正	<p>問10の「次の□をうめて、表を完成させなさい。」を「次の表10と図22～図24において、□をうめて、表や図を完成させなさい。」に変更した。</p>																									
116	表	修正	<p>問10の表を次のように変更した。</p> <p>表10</p> <p>グラフの形 (〇〇ページの図22)</p> <p>関数 $y = a x + b$ 傾きが □、切片が□の直線</p> <p>関数 $y = a x^2$ □軸について対称な□</p> <p>値の変化</p> <p>$a > 0$ のとき (〇〇ページの図23)</p> <p>関数 $y = a x + b$ xの値が増加すると、yの値は□する。</p> <p>関数 $y = a x^2$ xの値が増加するとき、$x = 0$を境として、yの値は減少から□に変わる。</p> <p>$a < 0$ のとき (〇〇ページの図24)</p> <p>関数 $y = a x + b$ xの値が増加すると、yの値は□する。</p> <p>関数 $y = a x^2$ xの値が増加するとき、$x = 0$を境として、yの値は増加から□に変わる。</p> <p>変化の割合</p> <p>関数 $y = a x + b$ 一定で□に等しい。</p> <p>関数 $y = a x^2$ □。</p>																									
118	図	修正	<p>方眼の数を 4×6 とした。</p>																									
120	絵	削除	<p>例2の絵を削除した。</p>																									
121	図	削除	<p>1の正四角柱の図は削除した。</p>																									
121	図	修正	<p>3(1)の図で、方眼を省略するとともに、x座標、y座標がともに整数となる点の座標を読み取ることができるようにした。</p>																									
121	17	修正	<p>3(2)の「右の図にかき入れなさい。」を「図27を参考にしにかきなさい。」に変更した。</p>																									
122	15	修正	<p>「この関数のグラフをかくと、次の図のようになる。」を「この関数を表とグラフに表すと、次の表11と図29のようになる。」に変更した。</p>																									
122	図	修正	<p>Qの観覧車の図とグラフを2つの図に分けて表し、次のような表を挿入した。</p>																									

			<p>表11</p> <table border="1"> <tr> <td>ゴンドラ</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td>F</td> <td>G</td> </tr> <tr> <td>の場所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>時間</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>(分後)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高さ (m)</td> <td>0</td> <td>4.0</td> <td>15.0</td> <td>30.0</td> <td>45.0</td> <td>56.0</td> <td>60.0</td> </tr> </table>	ゴンドラ	A	B	C	D	E	F	G	の場所								時間	0	1	2	3	4	5	6	(分後)								高さ (m)	0	4.0	15.0	30.0	45.0	56.0	60.0	
ゴンドラ	A	B	C	D	E	F	G																																					
の場所																																												
時間	0	1	2	3	4	5	6																																					
(分後)																																												
高さ (m)	0	4.0	15.0	30.0	45.0	56.0	60.0																																					
124	図	修正	例2の図アの矢印を省略し、さらに図アと図イを図32と図33にそれぞれ変更した。																																									
124	3	修正	例2の「長方形を固定し、台形を矢印の方向に…」を「このとき、図33のように長方形を固定し、台形を右の方向に…」に変更した。																																									
124	図	修正	問5の方眼の数を12×4とした。																																									
125	図	削除	トライで、1枚の紙を切っていく図を削除した。																																									
125	図	修正	トライ(2)の方眼の数を16×5とした。																																									
125	図	修正	確かめようの方眼の数を10×10とした。																																									
127	図	修正	応用4の正方形の図で、矢印は省略した。																																									
129	絵	削除	自動車の停止距離の関係を表す絵は削除した。																																									
129	表	修正	<p>表を、次のように表した。</p> <p>表15</p> <p>(注)「空走」は空走距離、「制動」は制動距離、「停止」は停止距離を示す。</p> <p>時速の単位は km/h、空走距離、制動距離、停止距離の単位は m</p> <table border="1"> <tr> <td>時速</td> <td>空走</td> <td>制動</td> <td>停止</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>17</td> <td>27</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>70</td> <td>19</td> <td>39</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>80</td> <td>22</td> <td>54</td> <td>76</td> </tr> </table>	時速	空走	制動	停止	20	6	3	9	30	8	6	14	40	11	11	22	50	14	18	32	60	17	27	44	70	19	39	58	80	22	54	76									
時速	空走	制動	停止																																									
20	6	3	9																																									
30	8	6	14																																									
40	11	11	22																																									
50	14	18	32																																									
60	17	27	44																																									
70	19	39	58																																									
80	22	54	76																																									
132～133	図	削除	これまでに学習したことの中の、【拡大図・縮図】【円の接線】【角錐・円錐の体積】の図を削除した。																																									
134	写真	削除	ターレスの写真は削除し、「紀元前624頃～紀元前546頃」を本文中に挿入した。																																									
135	絵	削除	(1)の左側のターレス・棒・ピラミッドの絵を削除し、棒の影の長さやピラミッドの影の長さの測定の図のみ点図化した。																																									
136	図	修正	Qの図の方眼の数を4×17とした。 また、(ア)の図のBCの長さを3マス、BCを底辺としたときの高さを2マスとし、(イ)の図のB'C'の長さを6マス、B'C'を底辺としたときの高さを4マス、(ウ)の図のB''C''の長さを6マス、B''C''を底辺としたときの高さを4マスに変更した。																																									
138	図	削除	問5のあとの、2つの三角形と囲みの部分(メモに相当)を削除した。																																									
140	3～5	修正	Qの文章を、次のように変更した。																																									

			次の図9のような△ABCがあります。図10を使って、次のような条件を満たす△DEFの書き方を考えてみましょう。	
140	図	削除	図中の「2倍に拡大」と矢印は削除した。	
144	2～4	修正	Qの文章を次のように変更した。 次の図20のように△ABCをかき、△ABCを2倍に拡大した△A'B'C'をかくために、適当な点Oを決めます。次にOA' = 2OAとなるように点A'をとります。同じ方法で、点B'、点C'をとり、△A'B'C'を考えてみましょう。	
144	図	修正	Qの図の方眼の数を10×16とした。	
145	図	修正	問11の図の方眼の数を10×16とした。	
145	写真 6	削除	トライで、ピータの拡大図をかいている写真は削除し、文章中の「右の図のように」も削除した。	
146	5	修正	例1の考え方を次のように変更した。 次の図23で、木ABの影の部分がBC、鉄棒DEの影の部分がEFである。このとき、∠B = ∠E = 90°、∠C = ∠Fであるから、 △ABC ∽ △DEF 木の高さをx mとして比例式に表す。	例1の学習の際には、光の性質について説明をする必要がある。
146	絵	修正	例1の木や鉄棒の絵を真横から見た図に略図化した。	
146	絵	修正	例2の池の絵の図を略図化した。	
147	絵	修正	問2の校舎を見上げる図を、略図化した。	
147	絵 図 9～ 10	削除 修正	クローズアップの左側の、木こりが木の高さを見積もる絵を削除し、「上の図は、木こりたちが使っていた方法で、またの間から木の先端を見るという方法です。右上の図のように腰を直角に曲げ、またの間から木の先端が見える位置まで移動します。」を「木こりたちは、またの間から木の先端を見るという方法を使っていました。次の図27のように腰を直角に曲げ、またの間から木の先端が見える位置まで移動します。」に変更した。 さらに、右側の図は点図化し、次の文章を挿入した。 (注) 木がAB、頭の場所がC、腰の場所がD、足をおく場所がE	
147	絵 14～ 16	修正	クローズアップ右下のイラストを、おもりをつり下げた道具の略図に変更した。 また、「右の図は、正方形の紙を対角線で2つに折っておもりをつり下げ、斜辺の先に木の先端が見える位置まで移動するという方法です。」を「次の図28のように、正方形の紙を対角線で2つに折っておもりをつり下げたものを手に持ち、斜辺の先に木の先端が見える位置まで移動するという方法があります。」に変更した。	
149	図 5	削除 修正	1の線分ABの図を削除した。また、文章中の「線分AB」を「紙」に変更した。	長さ10cmの紙テープなどを用いるとよい。
153	図	修正	下の3つの図の中で、最も右にある図において、直線pと直線l、m、nとの交点をそれぞれA、B、C、直	

			線qと直線l、m、nとの交点をそれぞれD、E、Fとし、図の中に「 $AB=a$ 、 $DE=a'$ 」と挿入した。	
154	図	修正	問7(3)の図において、直線l、m、nと交わる2本の直線をそれぞれ直線p、qとした。また、直線pと直線l、m、nとの交点をそれぞれA、B、C、直線qと直線l、m、nとの交点をそれぞれD、E、Fとし、図の中に「 $AC=10$ 、 $EF=7$ 」と挿入した。	
154	図	削除	問9の線分ABの図を削除した。	
155	3～6	修正	Qの文章を次のように変更した。 次の図50のように、 $\triangle ABC$ の辺AB、ACをそれぞれ4等分する点をとりました。DとG、EとH、FとIを結ぶとき、それらの線分と辺BCとの位置関係がどのようなになるか考えてみましょう。	
156	図	削除	(重要)の三角形の図を、削除した。	
157	図	修正	Qの図の方眼の数を 10×14 とした。	
158	2	修正	Qの「…順に結んでみましょう。どんな図形…」を「…順に結ぶと、どんな図形…」と変更した。	
158	16	修正	証明の中のピータのセリフを、証明のあとに挿入した。	
159	13	削除	拓海のセリフを削除した。	
159	図	削除	トライのパソコンの図において、モニター画面内のゲームラン形の図以外は削除した。	
160	図	修正	2(2)の図において、直線l、m、nと交わる2本の直線をそれぞれ直線p、qとした。また、直線pと直線l、m、nとの交点をそれぞれA、B、C、直線qと直線l、m、nとの交点をそれぞれD、E、Fとし、図の中に「 $AB=10$ 、 $DE=7$ 」と挿入した。	
163	図	削除	例2の2つの三角形の図を削除した。	
164	図	修正	2つの三角錐の見取り図を「上から見た図」で表した。	
164	図	削除	Qの立方体の図を削除した。	
166	図	削除	問2の2つの四角錐の見取り図を削除した。	
166	8～12 図	修正 削除	例1の文章を次のように変更した。また、容器の見取り図を「前から見た図」で表し、円柱のコップの見取り図は削除した。 次の図74のような、底面の直径CDが16cm、高さOBが24cmの円錐形の容器にコップで水を入れます。コップ1杯で水面の高さOAは12cmになりました。このコップであと何杯水を入れれば、容器が満水になりますか。	
167	図	削除	1の2つの三角形の図を削除した。	
167	図	削除	2の2つの正四面体の見取り図を削除した。	
167	10	修正	クローズアップの文章を次のように変更した。 墨字の記号の由来「 \equiv 、 ∞ 」 合同や相似の記号を最初に使ったのは、ドイツのライプニッツ(1646～1716)で、17世紀のことです。墨字の相似の記号 ∞ は、ラテン語のsimilis(「似ている」の意味)の頭文字sを横にしたものといわれています。また、墨字の合同の記号 \equiv は、墨字の相似の記号 ∞ と面積が等しい記号 $=$ を ∞ のように上下において1つにし、さらに \equiv のようにして考案されました。	

168	14～ 16	修正	4の文章を次のように変更した。 底面の直径CDが20cm、高さOBが30cmの円錐の形をした容器に、水の深さOAが18cmになるまで水を入れます。次の問いに答えなさい。	
170	3～ 4 図	修正 削除	「右の写真は、カップ麺の普通サイズとビッグサイズの容器です。」を「カップ麺の普通サイズとビッグサイズの容器があります。」と変更し、2つのカップ麺の容器の写真を削除した。	
172	2	修正	「次の図のサッカー場のP地点とQ地点は、ゴールから等しい距離にあります。」を「次の図1は、サッカー場の一部です。P地点とQ地点は、ゴールから等しい距離にあります。」と変更した。	
172～ 173	図	修正	サッカー場のラインや三角定規の図を省略した。	
173	2	削除	「次の図にいくつかかき入れましょう。」を削除した。	
173	キャラクター	修正	ピータのセリフを次のように変更した。 ピータ「最初に三角定規の 30° の角と2点A、Bを三角定規に合わせてから考えてみよう。」	
173	4	修正	2の文章を次のように変更した。 次の図4は、図3の点Oを中心に、半径OAの円をかいたものです。フィールド内にある円Oの円周上に点Pを二つとりました。 $\angle APB$ を測ってみましょう。どんなことがわかるでしょうか。	
173	図	追加	図2の点A、Bを通る円Oに円周上の点Pをかき入れた図3を追加した。	
174	2 図	修正	Qの文章を、次のように変更し、図の中の円周上に点Pと点P'をとり、円周角を測れるように修正した。 次の図5は、円Oの弧ABを除いた円周上に点Pと点P'をとり、 $\angle APB$ 、 $\angle AP'B$ をつくりました。 $\angle APB$ 、 $\angle AP'B$ の大きさを調べてみましょう。	
174	図	修正	円周角の説明の図を、円周角を二つにし、簡略化した。	
174	9	修正	「適当な半径の円Oをかき、中心角 $\angle AOB$ の大きさを決め」を「次の図7(1)の中心角 $\angle AOB$ の大きさと」に変更した。	
174	図	追加	問1の図に、次のように2つの図を追加し、3つの図を挿入した。また、ピータのセリフのあとに、図7(2)(3)を参照するように指示した。 図7(1) 原本通り 図7(2) 半円の弧に対する円周角 図7(3) 円周角が鈍角の場合	
175	図	削除	問2の図を削除した。	
176	図	削除 修正	問3の問題文の図を、削除した。 また、証明の図の中の、○のをaに、●をbに変更した。	
177	図	削除	結衣さんがイメージしている図を、削除した。	
184	図	削除	問1の図を削除した。	
186	1	修正	Qの文章を次のように変更した。	

			次の図 38 で、点Aを接点とする円Oの接線を考えてみましょう。また、接線のどんな性質を利用しているのでしょうか。	
186	図	修正	結衣さんの考えの図において、三角定規をずらす前の図を(1)、頂点Aが円Oの円周上にきた図を(2)とし、2つの図に分けた。	
187	図	修正	円Oの外部の点Pを通る円Oの接線の図を、線分POの中点O'を中心とした半径O'Pの円と円Oとの交点をそれぞれA、Bとした図に変更した。	
187	図	修正	3の図を、直線PA、PBの作図が完成した図に変更した。	
187	11	修正	「結んでみましょう。」を「結んでみました。」に変更した。	
188	16	修正	「中心Oを求めなさい。」を「中心Oの求め方を考えなさい。」に変更した。	
191	図	修正	1のサッカーボールの軌道の図を2つに分け、簡略化した。	
191	図	修正 追加	1(1)の図で、サッカー場のラインを削除した。また、点A、Bを通り、直線lと接する円を追加した。	
191	8	修正	「点Pを、次の図に作図しなさい。」を「点Pの作図の方法を考えなさい。」に変更した。	
192	図	削除	神奈川県三浦半島周辺の海図を削除した。	
192	図	修正	1の海の図を、海と陸の境界線を残し、簡略化した。	
193	6	修正	3の文章を次のように修正した。 結衣さんの考え方で、図 57 に、 $\angle CPB=60^\circ$ となる点Pを求めるための円O'のかきかたを考えてみましょう。また、2つの円O、O'をもとにして、船の位置Pの求め方を説明してみましょう。	
194	写真	削除	ピタゴラスの写真を削除し(紀元前 572 頃～紀元前 492 頃)を本文中に挿入した。	
194	図	修正	直角二等辺三角形の斜辺を1辺とする正方形の面積が、他の2辺をそれぞれ1辺とする正方形の面積の和と等しくなっている図について、3つのうち次の2つを点図化した。 (1) 面積が0.5の直角二等辺三角形(原典教科書の左上の図) (2) 面積が1の直角二等辺三角形	
197	11	削除	ピータのセリフを削除した。	
198	2 図	修正 削除	問2の文章を次のように変更し、図を削除した。 直角三角形の斜辺の長さをc、他の2辺の長さをa、bとして、次の□にあてはまる数を求めなさい。 (1) $a=6$ $b=\square$ $c=10$ (2) $a=\square$ $b=24$ $c=25$ (3) $a=4$ $b=4$ $c=\square$ (4) $a=\sqrt{2}$ $b=\square$ $c=3$ (5) $a=3\sqrt{5}$ $b=2$ $c=\square$	
202	図	修正	丸太の図の年輪を削除し簡略化した。	

206	17～ 18	削除	問9で、「また、上の図で線分ABの長さを実際に測り、その値と比べなさい。」の一文を、削除した。	
208	14	削除	ピータのセリフを削除した。	
210	図	修正	直方体の対角線の長さを説明した図を、「上から見た図」と「前から見た図」で表した。	
210	図	修正	例1の解答の上の図を、断面△AEGで表した。	
209	図	削除	問3の図を削除した。	
211	図	修正	例2の図を、底面の図と△OACで切断した断面の図で表した。	
213	図 10	削除 修正	5の図を削除し、「右の図の直方体」を「縦、横、高さがそれぞれ2cm、4cm、2cmである直方体」に変更した。	
213	図	削除	6の図を削除した。	
214	16	修正	「長さをとりになさい。」を「長さをとる方法を考えなさい。」に変更した。	
214	図	修正	5の図の弧C'Dを削除し、簡略化した。	
215	8	修正	3の文章を次のように修正した。 等高線が示してある地図上に2点A、Bがあります。AB間には、オープウェイを運行するためのロープが一直線にかけられています。地図上の2点AB間の距離は3cm、地点Aの標高は1760m、地点Bの標高は1600mです。このロープの長さを求めなさい。実際の距離100mが地図上では1cmで表しています。	
215	図	削除	3の図を削除した。	
218	1	修正	3の問題を、次のように変更した。 ○○ページの2と同様にして、次に示したビルや、自分の住んでいる地域の山や建物などの高さを使って、見渡せる範囲を求めてみましょう。 (1) あべのハルカス(大阪府大阪市) 300m (2) JRセントラルタワーズ(愛知県名古屋市) 245m (3) 東京都第1本庁舎(東京都新宿区) 243m (4) 浜松アクトタワー(静岡県浜松市) 213m (5) JRタワー(北海道札幌市) 173m (6) 朱鷺メッセ(新潟県新潟市) 141m (7) 千葉ポートタワー(千葉県千葉市) 125m	
218	図	削除	東京スカイツリーの図を削除した。	
218	図	削除	4の地図を削除した。	
218	15	修正	「右の図に示してみましょう。」を「地図を使って確認してみましょう。」に変更し、問題文のあとに、ピータのセリフを次のように追加した。 ピータ「地図の縮尺に気をつけてね。」	学習の際は、生徒が持っている地図帳の中から富士山が示してある物を選び、利用するとよい。
220	図	修正	1①の図は、表1と図1にわけて表した。また、出典は削除した。	
220～ 221	図 表	修正	1②の川の水質調査の写真と、③世論調査の新聞記事、⑤飛行機に乗るときの手荷物検査の写真、⑥学校で行う新体力テストのイラストは削除し、次のように項目を残した。	

			<ul style="list-style-type: none"> ① 国勢調査 (2010年) (表1 図1) ② 川の水質調査 ③ 世論調査 ④ テレビ番組の視聴率調査 (表2) ⑤ 飛行機に乗るときの手荷物検査 ⑥ 学校で行う新体力テスト 	
222	図	削除	母集団と標本の図中の「抽出」「推定」の文字、棒線は削除した。	
228	3～4 写真	削除	「次の写真は、そのようすを撮影したものです。」の一文を削除し、野球場の写真も削除した。	
234	表	修正	乱数表において、5×4のセルを、3×2、2×2、3×2、2×2に分け、巻末に入れて切って活用できるようにした。	
234	3	修正	乱数表の使い方 [例] 中の、「目をつむって」を削除し、「鉛筆」を「点筆」に変更した。 ②の下にある、乱数表の一部である3つのセルを、削除した。	
243	写真	削除 修正	マスカットの写真を削除し、写真中に示されている比を示した図のみを点図化した。	
245	図	修正	メソポタミア周辺の地図を、簡略化して点図で表した。	
245	写真 3	削除 修正	バビロニアの粘土板の写真を削除し、粘土板に描かれている楔形文字と図形のみを表したイラストと楔形文字を数字に直したイラストは、本文理解に必要な部分のみを点図化した。	
245	図	修正	バビロニアの粘土板の楔形文字のイラストとバビロニアの粘土板を60進法で示した図を、点図で表した。	
246	図	修正	問題1のウサギの運動場の配置を表した図を、点図化した。	
248	写真	修正	三角形のコマの写真を削除した。	指導の際は、写真に表されているような三角形のコマを用意し、触察及び操作させる必要がある。
249	絵	削除	三角形の重心を示したイラストを削除した。	指導の際は、重心の位置が凸で示した教材を用意し、図で示されているような操作をさせる必要がある。
252	絵	削除 修正	パソコンの絵を削除し、ディスプレイに示された、点Qを円周上でいろいろな位置に移動させた状態を模式的に示した図のみを点図化した。	
254	絵	修正	アレキサンドリアとシェネの太陽光の差し込み方の違いを現したイラストは、必要な部分を点図化した。	
254	図	修正	エラトステネスの検証について示した図を、点図化した。	
255	図	修正	緯度と経度を説明する地球の図は、上方、正面、側面の3方向で示した投影図に分けて表した。	
255	図	修正	緯度を求める考え方を示した図は、要素を点図化した。	

255	絵	修正	問題3の北極星の高度の測定方法を示した絵を削除し、必要な部分を簡略化して点図化した。	
256	写真	削除	算額の写真は、点図化が困難なため削除した。	指導では、算額の内容を凸図で表した教材等を用意して、算額の概要が把握できるよう配慮することが望まれる。
257	絵	削除	ピタゴラスのイラストは削除した。	指導においては、コップや鐘など実物を用意してイラストの内容を示すとよい。
259	絵	削除	水のサイクルを現した絵を削除し、要素のみを点図化した。	
260	図	修正	問題2の日本とスリランカの位置を示す地図を、簡略化して点図で示した。	
262	22	修正	囲みの部分を、原典教科書の形式で点図で表した。	
265	図	修正	数の構造を説明した図を点図化した。	
270	2～3	修正	1の文章を次のように変更した。 次の図○○のような線分ABをかき、 $\angle CBA = 45^\circ$ となる半直線BCを作図しなさい。	
270	4～5	修正	2の文章を次のように変更した。 次の図○○のような円Oをかいて、円周上に点Aをとります。点Aを通る接線を作図しなさい。	
278	図	修正	4の図を「上から見た図」で表した。	
278	図	修正	5の図を上から見た図と $\triangle OAC$ の断面図で表した。	
283	1～20	修正	3の文章中の「見える」「見えない」を「確認できる」「確認できない」と変更した。	
283	31	修正	「図3に書き入れなさい。」を「図10で考えなさい。」に変更した。	

3 参考資料

資料1 数式の書き表し方

各学年、第1巻に次の文が挿入されている。

点字による数式の書き表し方について
この教科書では、次のような原則で書かれている。

(1) 数式について

数式のはじめには、

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

のように数式指示符「⠠」をつけて書き表します。ただし、数符「⠠」からはじまる数式、日本語を囲むカッコ「⠠⠠」からはじまる数式には、数式指示符をつけていません。

(2) 分数について

分数は、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように分数全体を分数囲み記号「⠠⠠⠠⠠」で囲んで書き表します。

(3) 図形などを表す大文字について

アルファベットの太文字で三角形などの図形を書き表すとき、

三角形 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように2重大文字符「⠠⠠」をつけてそれぞれの文字が大文字であることを表している。

(4) 図や表の中での扱いについて

図や表の中では、文字を書くマスに制限があるので数式指示符を使わないで書くことがあります。

資料2 単位の書き方について

各学年、第1巻の「単位の書き方」の「容積を表す単位」「速さを表す単位」のそれぞれの最後の部分に、次の文が追加されている。

「容積を表す単位」

リットルを表す文字は、1でもよいですが、墨字では1と数字の1が似ているため、この教科書ではLを使用しています。

「速さを表す単位」

点字では、acm/s を ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように、単位カッコ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ を使って表すこともあります。